

# JAMAGAZINE

Japan Automobile Manufacturers Association

2013. November

# 47



**特集** 第43回東京モーターショー2013開催

一般社団法人 日本自動車工業会

世界にまだない  
未来を競え。



**The 43rd  
TOKYO  
MOTOR SHOW  
2013**



**第43回東京モーターショー2013**  
2013年11月22日(金) - 12月1日(日) 東京ビッグサイト

## CONTENTS

### 特集 第43回東京モーターショー2013開催

第43回東京モーターショー2013	2
一ショーテーマ「世界にまだない未来を競え。」— (“Compete! And shape a new future.”)	
各社出展車両のご紹介	
四輪) いすゞ自動車株式会社……………4	マツダ株式会社……………20
スズキ株式会社……………6	三菱自動車工業株式会社……………22
ダイハツ工業株式会社……………8	三菱ふそうトラック・バス株式会社……………24
トヨタ自動車株式会社……………10	UDトラックス株式会社……………26
日産自動車株式会社……………12	二輪) 川崎重工業株式会社……………28
日野自動車株式会社……………14	スズキ株式会社……………30
富士重工業株式会社……………16	本田技研工業株式会社……………32
本田技研工業株式会社……………18	ヤマハ発動機株式会社……………34

第43回東京モーターショー2013のイベント	36
------------------------	----

第43回東京モーターショー出展者リストと会場案内	43
--------------------------	----

### 記者の窓

「自動車が変わるもの」	47
-------------	----

／毎日新聞社 松倉 佑輔

### Topics

●消費税引き上げについて	48
●第43回東京モーターショー2013 “Mobilityscape Tokyo” を開催 —プレス向けイベント—	
●第43回東京モーターショー2013 各種入場券の一般販売と「参加券付入場券」、「聴講券付入場券」の販売を開始	
●2013年第2四半期および上半期累計海外生産統計	
●平成25年工業統計調査の実施について	



### 表紙イラストレーション

#### クルマのある風景

いけもと ゆりは  
池本 有里葉

倉敷芸術科学大学 芸術学部

スノードームの小さくてキラキラな世界に迷いこんでしまったイメージで描きました。冬は寒いけどこの絵を見て少しでも暖かみを感じてもらえたらうれしいです。

『JAMAGAZINE』では表紙に、美術を専攻している大学生などの皆さんの作品を掲載しています。

【第43回東京モーターショー2013開催】

## 第43回東京モーターショー2013

—ショーテーマ「世界にまだない未来を競え。」—  
（“Compete! And shape a new future.”）

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：豊田 章男）は、第43回東京モーターショー2013を本年11月22日（金）から12月1日（日）まで10日間（一般公開は11月23日（土）から）、前回に引き続き、東京ビッグサイトにて開催いたします。

今回のショーテーマは、「世界にまだない未来を競え。」“Compete! And shape a new future.”としました。国内外の自動車メーカーが一堂に会する東京モーターショー。持てる技術と情熱のすべてを注いだクルマたちがそろい、あらゆる性能を、美しさを、そして夢を、本気で競い合っています。体験していただきたいのは、競い合い高め合うことで生まれる「世界にまだない未来」です。

世界12ヶ国から合計178社181ブランド（展示面積38,293m<sup>2</sup>）が参加します。全ての国内メーカー14社・15ブランドが出展し、海外からは18社・20ブランド（乗用車・商用車・二輪車）が出展します。

今回のモーターショーでは、ワールドプレミア（世界初の発表）が76台（乗用車40台、商用車3台、二輪車24台、カロッツェリア3台、車体6台）、ジャパンプレミア（日本初の発表）が81台（乗用車40台、商用車4台、二輪車33台、カロッツェリア2台、車体2台）登場する予定です。

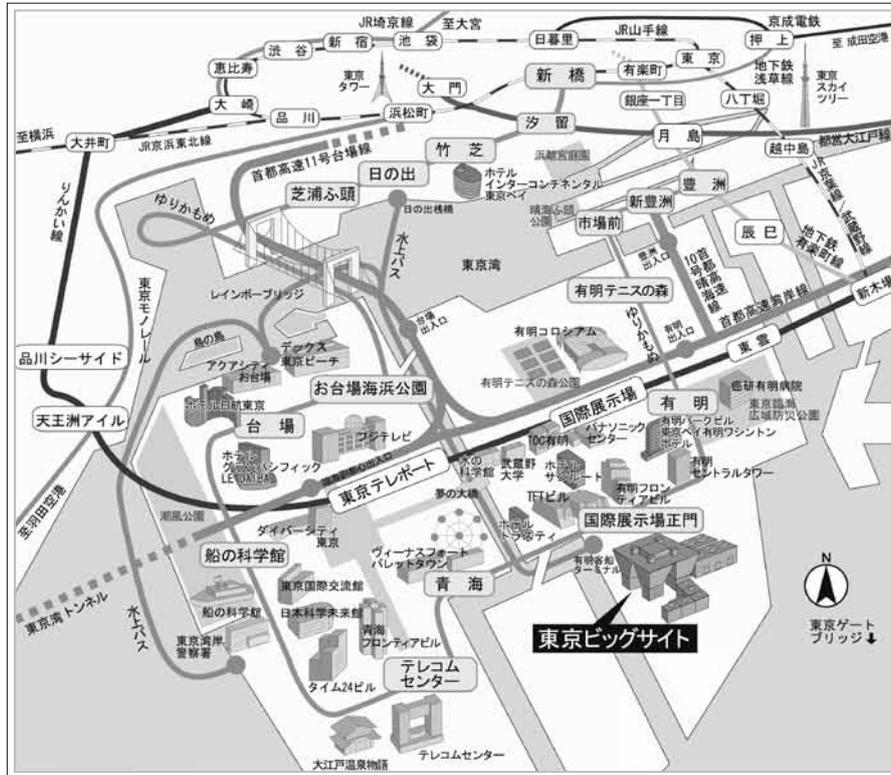
また、新たな取り組みとして、モーターショー開催直前と会期中に、東京モーターショー会場となるお台場エリアを舞台に、より多くの若者やファミリー層にクルマ・バイクに触れてその魅力を感じてもらうイベント「お台場モーターフェス」を実施します。

さらに、前回ショーにて新たな主催者企画として開催した“SMART MOBILITY CITY”については、今回も“SMART MOBILITY CITY 2013”として「KURUMA NETWORKING～くらしに、社会に、つながるクルマたち～」をテーマに開催します。2回目の開催となる今回は、ITSを中心として「次世代自動車とそれらを取り巻く社会システム」を提示します。主催者によるコア展示を含む様々な業界からの出展とテストライド、国際シンポジウムなどを通して、より深く、より分かりやすくご紹介します。

これらの様々な施策や連携により、第43回東京モーターショー2013は地域が一体となり、クルマやバイクを核にした“モーターウィーク”が16日間続くこととなります。これまでにない東京モーターショーとなりますので、一人でも多くのお客様にお越しいただき、楽しんでいただきたいと思います。

◎第43回東京モーターショー2013 各社出展ブースのご案内

[東京ビッグサイトへのアクセス路線図]



☆りんかい線「国際展示場」駅下車 徒歩約7分、大崎駅（JR）から13分、新木場駅（JR、東京メトロ）から5分  
 ☆ゆりかもめ「国際展示場正門」駅下車 徒歩約3分、新橋駅（JR、東京メトロ、都営地下鉄）から22分

[西1・2ホール]

- 本田技研工業      ○三菱自動車工業
- 三菱ふそうトラック・バス      ○ヤマハ発動機

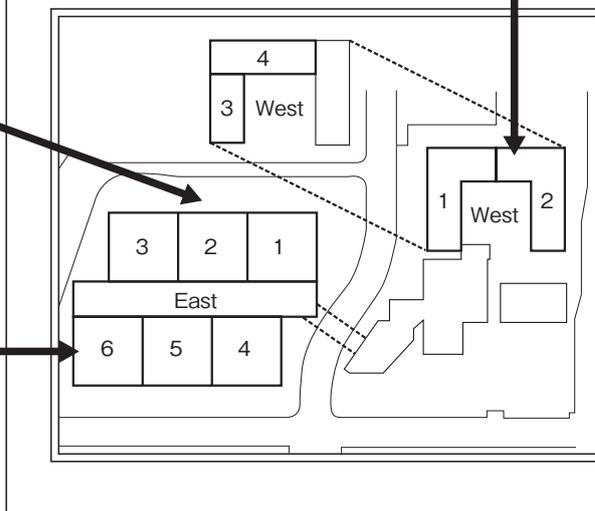
[東1・2・3ホール]

- いすゞ自動車
- 富士重工業
- ダイハツ工業
- トヨタ自動車
- 日野自動車
- UDトラックス

[東4・5・6ホール]

- 川崎重工業
- スズキ
- 日産自動車
- マツダ

[東京ビッグサイト内の案内図]



## いすゞ自動車株式会社

いすゞ自動車株式会社は、「Always Next To You」—暮らしのそばに、いつまでも、どこまでも—を出品テーマに、多岐にわたるクルマをつくりだし、暮らしのすぐそばで、豊かさや安心に貢献してきたいすゞを、商用車とディーゼルエンジンのいまとむかしを通して紹介する。また、海外生産・販売車の参考出品として、タイで2013年10月にフルモデルチェンジをしたISUZU mu-Xなど、7台の車両（内、参考出品2台）、6基のエンジン（内、参考出品3基）などを出品する。

### ◇エルフ CNG-MPI

燃焼させても硫黄酸化物（SO<sub>x</sub>）や粒子状物質（PM）が発生せず、温暖化の原因となる二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量も抑えられる天然ガスで走るトラックである。圧縮天然ガス（CNG）を使用し、エネルギー多様化への対応に取り組んでいる。



エルフ CNG-MPI

### ◇フォワード Fカーゴクール

中型トラック「フォワード」にはいすゞオリジナル完成車「Fカーゴ」シリーズがある。今回紹介する「Fカーゴクール」は温度管理バンとして食品の定温輸送に最適な装備をパッケージングしている。



フォワード Fカーゴクール

### ◇フォワード 6×6

高い走破性を確保するため、全輪駆動タイプの六輪駆動（6WD）を採用している。不整地走破性、軟弱地通過性、地形障害通過能力などが高く、広域林野火災や豪雨による浸水など、大きな災害に対応することができる。



フォワード6×6

### ◇ギガ ダンプ

“まちづくり”を支える耐久性と積載能力を備えた「ギガ ダンプ」のライトダンプを紹介する。ボディとシャシの軽量化を追求し、最大限の積載を確保しており、骨材や土砂の輸送に最適な車両である。



ギガ ダンプ

### ◇エルガ ハイブリッド

ディーゼルエンジン／オートクラッチ／モーター／AMT（自動変速式マニュアルトランスミッション）／リチウムイオンバッテリーで構成するパラレル式ハイブリッド路線バスで、省燃費走行とイージードライブを可能にしている。



エルガ ハイブリッド

### ◇ウーズレーCP型 1.5トン積みトラック

#### 参考出展車

1924年（大正13年）完成。いすゞのトラック製造の原点ともいえるトラックである。関東大震災を乗り越えて完成した、ウーズレーCP型1.5トン積みトラックの第一号車を紹介する。



ウーズレーCP型 1.5トン積みトラック

### ◇ISUZU Mu-X <海外生産・販売車両>

#### 参考出展車

タイで2013年10月にフルモデルチェンジをして発表したPPV（パセンジャー ピックアップ ビークル）である。ISUZU D-MAXをベースとして、快適性・安全性をさらに高め、タイヤオーストラリアをはじめ東南アジアを中心に海外のニーズに応える。



ISUZU Mu-X<海外生産・販売車両>

## スズキ株式会社

スズキブースは「新しい物語をつくろう。」をテーマに、スズキは、私たちの「商品」と「技術」を通して、世界のさまざまな地域のお客様に、ワクワクする『新しい物語』をつくっていただきたいという思いをカタチにして提案する。今回のブースでは、メインステージに、パーソナルなクロスオーバーコンパクト「Crosshiker（クロスハイカー）」や、本格小型四駆と先進の環境技術を融合させた「X-LANDER（エックスランダー）」などの参考出品車を展示。サブステージには、新ジャンルの軽クロスオーバー「HUSTLER（ハスラー）」などを展示する。ブースの天井を高く上げ、明るい未来を象徴するような全体に開放感を持たせたデザインになっており、3.6m×40mの超ワイドパノラマスクリーンによる映像、ブース内に設置した回転展示台などを組み合わせた演出で、車両の展示をさらに魅力的に彩る。

### ◇Crosshiker（クロスハイカー）

参考出展車



大胆な軽量化と高効率パワートレインに新鮮なスタイリングを融合したコンパクト・クロスオーバー「Crosshiker（クロスハイカー）」。

- ・2011年東京モーターショーに出展したコンセプトカー「REGINA（レジーナ）」は、軽量・低燃費技術を盛り込んだコンパクトカーの提案であった。その「REGINA」で採用した次世代軽量プラットフォームを用いたもうひとつの提案が、コンパクトなクロスオーバー「Crosshiker」である。
- ・「中身はエコでありながらも、デザインはキャラクター性のある愛着が持てるものにしたい」というコンセプトを継承しながら、より躍動感の強いスタイリングを採用し、遊び心を忘れない大人のためのクロスオーバーにふさわしいデザインとした。



Crosshiker（クロスハイカー）

### ◇X-LANDER（エックス・ランダー）

参考出展車



卓越した個性のハイブリッド本格四駆「X-LANDER（エックスランダー）」。

- ・このクルマで街に、時には野でスマートに遊んでほしい。そんな思いが詰まったクルマが、この「X-LANDER」である。
- ・スズキが世界に誇る小型四輪駆動車「ジムニー」をベースに、エンジンとモーターを組み合わせた小型・軽量のハイブリッドシステムを組み込み、最新の環境性能と高い走破性能を実現する。



X-LANDER（エックス・ランダー）

## ◇HUSTLER (ハスラー)

参考出展車



軽自動車の新ジャンルに挑戦、アクティブなライフスタイルに似合うクロスオーバー「HUSTLER (ハスラー)」。

- ・「自然が好き！ アウトドアが好き！ スポーツが好き！」そんなアクティブなライフスタイルに似合う、新ジャンルの軽自動車のクロスオーバータイプを提案する。
- ・アウトドアイメージを押し出したエクステリアに、広く快適な車内空間と実用性の高いインテリアを組み合わせた、これまでになかった軽クロスオーバーである。



HUSTLER (ハスラー)

## ◇HUSTLER Coupe (ハスラークーペ)

参考出展車



軽自動車の新ジャンルに挑戦、美しいシルエットを持ったクロスオーバークーペ「HUSTLER Coupe (ハスラークーペ)」。

- ・参考出品車の新ジャンル軽クロスオーバー「HUSTLER (ハスラー)」に「クーペシルエット」というさらなるバリエーションの幅を広げるデザイン提案モデルである。



HUSTLER Coupe (ハスラークーペ)

## ◇iV-4

参考出展車



スズキSUVのイメージを踏襲した力強いデザインのコンパクトSUV「iV-4」。

- ・「iV-4」は、ジムニー、エスクード等で高い評価をいただいているスズキが新たに提案するコンパクトSUVのコンセプトモデルである。
- ・「Grab your field (自分のフィールドをつかもう)」を開発コンセプトとし、お客様自身の遊びの領域、生活スタイルをこのクルマによって手に入れてほしいという思いと、地表をしっかりと捉える力強い走りを提供したいという思いを表現した。
- ・SUVとしての力強い走りを実現するため、スズキの次世代4WDシステム「ALLGRIP」を搭載している。



iV-4

## ◇ET4Dコンセプト 〈電動車両〉

参考出展車



運転補助機能を搭載し、より扱いやすく、便利で安心なセニアカー「ET4Dコンセプト」。

- ・傾斜表示や音声案内で安心機能を高めた、セニアカーのコンセプトモデルの提案。



ET4Dコンセプト

## ダイハツ工業株式会社

ダイハツ工業株式会社は、ワールドプレミアとなる3車種4台の参考出展車と、市販予定車1車種1台、市販車7台及び各種技術を出展する。今回は、『PLAY Tomorrow! もっと軽にできること。』をテーマに掲げ、小さいクルマが持つ楽しさ、可能性の広がりを訴求し、世界の人々に豊かな生活と、心躍る明日がやってくるような近未来のクルマ・技術などを各出展物で表現する。なかでも「KOPEN (コペン)」は、樹脂外板をカバーケースのように脱着できるボディ骨格とし、ひとつの骨格で複数の意匠が楽しめるなど、本来のオープンスポーツとしての走行性能の進化に加えて、新しいクルマの価値とカタチを提案する。今回はスタイリッシュ&エモーショナルな外装とタフ&アグレッシブな外装の2意匠を同時出展する。「DECA DECA (デカ デカ)」は、軽自動車規格を最大活用した、“スーパースペース”という新しいカテゴリーを提案する。ワゴンタイプ登録車の視界に匹敵する見晴らしの良さ高いスペースユーティリティを持ち、週末のアウトドアライフを楽しむアクティブな若者やヤングファミリー、さらにアクティブシニアも想定して開発したモデルである。ゼロエミッション・次世代モビリティとして開発した「FC 凸 DECK (エフシー デコ デッキ)」は、ダイハツが独自に技術開発した貴金属フリー液体燃料電池システムを搭載し、軽自動車規格の中で実現したモデルである。さらにこの燃料電池システムを応用した発電機「FC-Dock (エフシー ドック) 20C」、「FC-Dock 5C」の2タイプを出展する。安心・自由な未来のエネルギー社会に新たな可能性を切り開く技術として提案する。

### ◇KOPEN (コペン) future included Rmz

参考出展車



「新感覚・オープンスポーツ NEW FUN+」をコンセプトに、軽オープンスポーツの新しいカタチを提案。外板意匠をカバーケースのように自由に着せ替える新しい使い方と、骨格構造がもたらす走りの進化など、今まで経験したことのない、走る楽しさ・持つ楽しさを極限まで追求したモデルである。



KOPEN (コペン) future included Rmz

※RmzとXmzの2意匠同時提案。

#### Rmzのデザイン特徴

- ・スタイリッシュ&エモーショナルな独創的スタイリング。
- ・素材にこだわった上質なインテリア。

### ◇KOPEN (コペン) future included Xmz

参考出展車



「新感覚・オープンスポーツ NEW FUN+」をコンセプトに、軽オープンスポーツの新しいカタチを提案。外板意匠をカバーケースのように自由に着せ替える新しい使い方と、骨格構造がもたらす走りの進化など、今まで経験したことのない、走る楽しさ・持つ楽しさを極限まで追求したモデルである。



KOPEN (コペン) future included Xmz

※RmzとXmzの2意匠同時提案。

#### Xmzのデザイン特徴

- ・異素材質感で合わせたボディが存在感を発揮する、タフ&アグレッシブなスタイリング。
- ・スパルタンな雰囲気を持つインテリア。

## ◇DECA DECA (デカ デカ)

参考出展車



軽自動車規格を最大活用した新発想“スーパースペース”モデル。

ワゴンタイプ登録車に匹敵する見晴らしの良さと開放感と視界性を確保。

優れたスペースユーティリティは、アウトドアやアクティビティなどさまざまなシーンに対応。

多彩なシートアレンジなど、新たな可能性を秘めた新カテゴリの提案モデル。

- ・新発想“スーパースペース”により軽自動車の新しいパッケージングを提案。
- ・全高1,850mmボディに高い着座位置で開放感のある広い視界を確保。運転もしやすい。
- ・両側観音開きドアを採用し、大きな開口で長尺物や背高物の載せ降ろしが容易。
- ・前席ロングスライドや全席フルフラットなどさまざまなシーンに対応するシートアレンジ。



DECA DECA (デカ デカ)

## ◇FC 凸 DECK (エフシー デコ デッキ)

参考出展車



軽自動車に最適な液体燃料電池搭載のゼロエミッション・次世代ビークル。

シンプル、コンパクト、低コストな燃料電池発電機の可能性を新提案。

- ・ダイハツオリジナル技術の「貴金属フリー液体燃料電池」を搭載した次世代燃料電池車。
- ・エネルギー密度の高い液体燃料を使用する、軽自動車に最適なコンパクト新燃料電池システム。
- ・床下搭載可能なコンパクト燃料電池システムが生み出す自由度の高い新プラットフォーム。
- ・貴金属を使わず、資源問題を解消した低コストな燃料電池スタック。

<燃料電池発電機の可能性を新提案 FC-Dock (エフシー ドック)>

- ・燃料電池の新たな活用法としてのシンプル、コンパクト、低コストな発電機。
- ・燃料補給はボトル交換式を採用し、燃料に直接触れることなく簡単、安全。
- ・外部電力なしで起動できる自立型であり、非常時でも電力供給可能。



FC 凸 DECK (エフシー デコ デッキ)

## トヨタ自動車株式会社

TOYOTAは、前回に引き続き「FUN TO DRIVE, AGAIN.」の考えのもと、クルマの楽しさを追求する未来のモビリティライフを提案、今回2015年に市販を開始する燃料電池自動車、直感で通じ合うことで愛着を感じられる未来のクルマを具現化したコンセプトカー、また、だれもが笑顔になれる日本ならではの“おもてなし”を感じさせる次世代タクシーなどの参考出品車を展示する。

### ◇TOYOTA FCV CONCEPT

参考出展車



実用性の高いセダンタイプの次世代燃料電池自動車（FCV）のデザインコンセプト。未来の水素エネルギー\*1社会実現に向け、トヨタは2015年にFCVの市販を開始する。

\*1 水素（H<sub>2</sub>）エネルギー：電気に比べエネルギー密度が高く、多様な原料から作ることができ、貯蔵が容易といった点で、将来の有力なエネルギー。



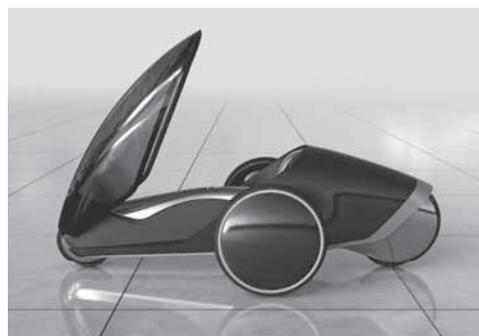
TOYOTA FCV CONCEPT

### ◇TOYOTA FV2

参考出展車



自動運転技術が普及した世界でも「Fun to Drive」が感じられる、未来の「愛車」を具現化したコンセプトカー。「直感で通じ合えるクルマ」をコンセプトとし、ヒトとクルマが「カラダ」と「ココロ」で通じ合うことでクルマに乗ることが楽しくなり、乗れば乗るほど愛着が感じられるパートナー。



TOYOTA FV2

### ◇JPN TAXI Concept

参考出展車



みんなが乗りたくなる、そして笑顔になる。日本の街の風景を変え、日本ならではの“おもてなしの心”から生まれた次世代タクシーコンセプト。タクシーの走行パターンに最適な、優れた環境性能と経済性をもつ新LPG\*2ハイブリッドシステム採用。

\*2 LPG：Liquefied Petroleum Gas（液化石油ガス）



JPN TAXI Concept

# LEXUS

LEXUSは、スポーツクーペ「LEXUS RC」及び、新開発2.0ℓターボエンジンを搭載したコンパクトクロスオーバーSUVのコンセプトカー「LEXUS LF-NX」を出展する。従来的高级とは異なる価値観で、お客様の期待を超える驚きと感動を提供し続けることを使命としている。具体的には、一目でLEXUSとわかるデザイン、エモーショナルな走り、優れた環境性能を実現したほか、先端技術の採用など、LEXUSならではの価値を提供し、さらなる進化を追求していく。

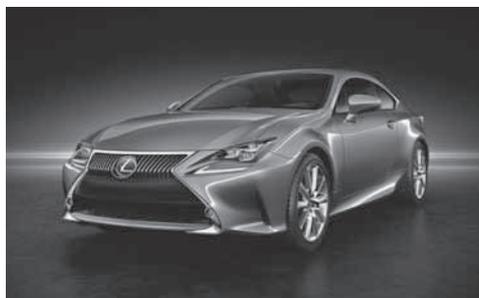
## ◇LEXUS RC

参考出展車



LEXUSの“走り”のイメージをけん引するプレミアムスポーツクーペ

- ・スポーティでダイナミックなサイドシルエットや、踏ん張り感を強調したホイールフレアなど、低く構えたワイドスタンスを生かした、見る者を一目で魅了するスタイリング。
- ・「LEXUS LFA」や「LEXUS LF-LC」など、LEXUSスポーツモデルの意匠をモチーフとしたヘッドランプやL字型を強調したりヤコンビネーションランプなど、個性を際立たせたLEXUS独自のデザイン要素。
- ・水平基調のインストルメントパネルや表皮一体発泡シートを採用し、クルマとドライバーの一体感を感じさせるスポーツコックピット。
- ・パワートレインには3.5ℓガソリンエンジンと2.5ℓハイブリッドの2種類を採用し、LEXUSならではのエモーショナルな走りを実現。



LEXUS RC

## ◇LEXUS LF-NX

参考出展車



新開発ターボエンジンを搭載した次世代のプレミアムコンパクトSUVコンセプト

- ・フランクフルトモーターショーに出展した「LEXUS LF-NX」に、新たに開発した2.0ℓターボエンジンを搭載。高い走行性能と優れた環境性能を実現。
- ・「凝縮感」と「切れ味」をテーマとし、引き締まったボディと張り出したタイヤのコントラストで、SUVの力強さと俊敏な走りを表現したエクステリア。
- ・タッチパッド型の新型リモートタッチ採用など、LEXUSの先進性を象徴するインテリア。
- ・東京モーターショー出展車両は、低い構えを表現するフロントアンダースポイラーなど、ターボモデルならではのスポーティな走りを予感させるデザイン要素を新たに採用。



LEXUS LF-NX

## 日産自動車株式会社

日産自動車株式会社は、今回のショーで、世界初公開となるコンセプトカーを出展する。この他、「NISSAN GT-R NISMO」に加え、「日産デイズ ルークス」などを含む参考出品車や、自動運転機能をはじめとする日産の最新の取り組み、先進安全技術をさまざまな展示にて紹介する。

### ◇ブレイドグライダー

### コンセプトカー



「ドライビング」から「グライディング」へ～新たな価値を創造する次世代EV～。

- ・コンセプトカーの「ブレイドグライダー」は、グライダーと三角翼をルーツに究極まで突き詰めた効率性と高揚感の両立という新しい「グライディング」プレジャーを提供する。



ブレイドグライダー

### ◇日産デイズ ルークス

### 参考出展車

好調な日産デイズシリーズ第2弾のスーパーハイトワゴン。

- ・「日産デイズ」シリーズとして発表する軽自動車の第2弾モデルで、スーパーハイトワゴンタイプの新型軽自動車である。躍動感のあるエクステリアとゆったりとした広さを感じさせるプレミアムなインテリアデザインを実現している。



日産デイズ ルークス

### ◇新型ティアナ

### 参考出展車

人生最高の今を輝かせる大人のプレミアムセダン。

- ・プレミアムセダンとして世界120ヵ国以上で販売されるグローバル戦略車である。初代の「モダンリビング」、2代目の「おもてなし」のDNAを継承しつつ、走る愉しさを追求するためにドライビング性能を向上した3代目のモデルである。



新型ティアナ

### ◇新型スカイライン

### 参考出展車

2013年11月11日に日本で発表。



新型スカイライン

◇新型エクストレイル

参考出展車

高い走行性能や先進機能、環境性能を備える最強のSUV。

- ・シーンを問わない高い走行性能、使い勝手の良いラゲッジとユーティリティ、最強のSUVにふさわしい先進機能と環境性能が特徴のSUV。「セーフティパッケージ」と安全装備のオプションを装着した車両を出展。



新型エクストレイル

※2013年12月に日本で発売予定。

◇セレナ

参考出展車

ビッグマイナーチェンジで衝突回避支援システムなど先進安全装備を標準化。

- ・国内でのミニバン販売台数No.1を誇る日産のセレナがビッグマイナーチェンジを行う。衝突回避を支援する「エマージェンシーブレーキ」と「LDW（車線逸脱警報）」の標準化をはじめとして、先進安全装備を充実させた。さらに、スタイリングはフロントからリヤまで一新している。



セレナ

※2013年12月に日本で発売予定。

◇ノート

参考出展車

エマージェンシーブレーキと踏み間違い衝突防止アシスト搭載により安全性強化。

- ・日産のグローバルコンパクトハッチバックのマイナーチェンジ車である。新たに衝突回避を支援する「エマージェンシーブレーキ」、「LDW（車線逸脱警報）」、「踏み間違い衝突防止アシスト」などの先進安全装備を採用する。



ノート

※2013年12月に日本で発売予定。

◇エルグランド

参考出展車

ビッグマイナーチェンジで極めるキング・オブ・ミニバン。

- ・日産のプレミアムミニバンがビッグマイナーチェンジを行う。エクステリアを大迫力のフロントフェースに大幅に変更する。高品質でラグジュアリーなインテリアを装備し、また、荷室の拡大も実現した。



エルグランド

※2014年1月に日本で発売予定。

## 日野自動車株式会社

日野の出展テーマは「あしたをはこぶ、世界のあなたへ」。物をはこび、人をはこび、世界中の人々の暮らしを支えている日野車たちを、商用車に触れる機会の少ない皆様にもわかりやすく紹介し、環境にやさしい商用車のこれからのあり方について提案する。

### ◇日野ポンチョ・ミニ (小型EVコミュニティバス コンセプト)



日野の考える小型コミュニティバスのコンセプトモデル。電気モーターで走行するため、静かで走行中の排出ガスはゼロ。さらにEVならではのコンパクトなパワートレーンでフラットな超低床を実現している。



日野ポンチョ・ミニ  
(小型EVコミュニティバス コンセプト)

### ◇小型EV商用車 プラットフォーム 原寸モデル



日野ポンチョ・ミニにも応用している小型EV商用車プラットフォームの原寸大モデルを併せて展示する。



小型EV商用車 プラットフォーム 原寸モデル

### ◇日野メルファ プラグインハイブリッド (外部給電機能搭載車)



中型バス「日野メルファ」をベースとしたプラグインハイブリッドバス。外部への給電機能を備えており、災害時には避難所等へ電力を供給することができる。展示車は「移動診療車」仕様である。



日野メルファ プラグインハイブリッド  
(外部給電機能搭載車)

### ◇日野セレガ（先進安全技術搭載車）

最新の安全技術を搭載し、快適で安全な旅を演出する大型観光バス「日野セレガ」。前走車に対する追突を回避する機能を向上させた、進化した「PCS（プリクラッシュセーフティ、衝突被害軽減ブレーキ）」、「車線逸脱警報」、「ドライバーモニター」を搭載している。



日野セレガ（先進安全技術搭載車）

### ◇HINO300シリーズ ハイブリッド（日野デュトロ ハイブリッド 海外仕様車）

低燃費で定評の小型トラック「日野デュトロ ハイブリッド」の海外仕様車。「日野デュトロ ハイブリッド」は、アメリカやオーストラリアでも活躍中。展示車は米国仕様車である。



HINO300シリーズ ハイブリッド  
（日野デュトロ ハイブリッド 海外仕様車）

### ◇HINO700シリーズ 鉱山用超大型ダンプ

海外の鉱山で活躍する積載量35トンの超大型ダンプトラック。日本で一般的な大型ダンプトラック3台分を超える資源を一度に運ぶことができる。



HINO700シリーズ 鉱山用超大型ダンプ

### ◇日野レンジャー ダカールラリー2011参戦車

1991年の初参戦以来22回連続して出場し、チームとしてすべて完走を果たした日野レンジャー。展示車はダカールラリー2011で菅原義正ドライバーがステアリングを握り、完走を果たした車両である。



日野レンジャー ダカールラリー2011参戦車

## 富士重工業株式会社

富士重工業は、スバルのブランドステートメントである“Confidence in Motion”をテーマとし、スバルブランドがお客様に提供する価値である「安心と楽しさ」の将来像を出展車や体感型ブースを通じて提案する。スバルの持つ最新技術を注ぎ込み、「走行性能」、「安全性能」、「環境性能」を高次元で融合させた、日本市場に向けて新たなクルマの価値を提案する、新型スポーツツアラー「LEVORG（レヴォーグ）」\*1を世界初公開する。また、スバルの将来めざす技術の方向性を具現化した「SUBARU VIZIV EVOLUTION CONCEPT」や、新たな都市型SUVとしてのデザインコンセプトカーである「SUBARU CROSS SPORT DESIGN CONCEPT」などを展示し、未来のスバルブランドが提案する価値を紹介する。

\*1：プロトタイプ。

### ◇SUBARU LEVORG

参考出展車



「LEVORG（レヴォーグ）」は、スタイリッシュで美しいスポーツカーのようなデザイン、鍛え抜かれた「走行」、「安全」、「環境」といった基本性能、ツーリングカーとしてのユーティリティを兼ね備え、日本市場に向けた新型スポーツツアラーである。愉しく気持ちのよい走りと優れた環境性能を高次元で両立する新開発「1.6ℓ水平対向直噴ターボ“DIT”エンジン」や、新たに操舵支援制御を実現し、多くの安全機能を追加した「次世代アイサイト」といった最新技術を数多く搭載。スバルはより高いレベルで「安心と楽しさ」の価値を実現するために、スポーツカーやワゴンというカテゴリーを超越した新型スポーツツアラー「LEVORG（レヴォーグ）」を提案する。



SUBARU LEVORG

### ◇SUBARU VIZIV EVOLUTION CONCEPT

参考出展車



スバルブランドがめざす将来のデザインや技術の方向性を示すモデルとして、2013年ジュネーブモーターショーなどに出展した次世代クロスオーバーコンセプト「SUBARU VIZIV CONCEPT」を進化させ、日本で初公開する。スバルの将来におけるパワーユニットのひとつの提案として、1.6ℓ水平対向直噴ターボ“DIT”エンジンと高トルク対応リニアトロニックに、フロント：1モーター、リヤ：2モーターを組み合わせたプラグインハイブリッドシステムを採用。さらに、新たにスバルがめざす将来の先進安全技術として、オートパイロットシステムを搭載した。スバルの描く未来像を「SUBARU VIZIV EVOLUTION CONCEPT」で紹介する。



SUBARU VIZIV EVOLUTION CONCEPT

◇SUBARU CROSS SPORT DESIGN CONCEPT

参考出展車



スバルが培ってきた「SPORT」と「UTILITY」を融合したクロススポーツデザインコンセプトである。軽快な走りをもたらす全長4,300mmのコンパクトなボディながら、乗降性を高めるとともに、快適な室内空間と豊かなラゲッジスペースを確保。スバルが新たに提案する都市型SUVのデザインコンセプトモデルである。

◇SUBARU CROSSOVER 7 CONCEPT

参考出展車

スバルSUVシリーズの新たなラインアップとして、7シーターのクロスオーバーモデルを提案。都会的で洗練されたプロポーションながら、オールラウンドな性能も表現したエクステリアデザイン。インテリアには、大人の遊び心を刺激する個性的で質感高いタンレザーシートを採用し、上質かつ開放感あふれる室内空間とすることで、あらゆるシチュエーションで「安心と愉しさ」を感じることができるモデルとした。



SUBARU CROSSOVER 7 CONCEPT

## 本田技研工業株式会社

Hondaは、「枠にはまるな。」をブースコンセプトに、常識や前例にとらわれないHondaの斬新で自由な発想が生んだ独創のモビリティを提案する。Hondaは、挑戦を続けることで、これまでにないモビリティを創造し、「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現に向け、世界中のお客様に常に夢のある商品を提供していく。四輪車は、軽オープンスポーツモデル「Honda S660 CONCEPT」や、次世代スーパースポーツモデル「NSX CONCEPT」を出展する。その他、四輪車では、軽乗用車「N」シリーズ第4弾モデルとなる「N-WGN」や、グローバルコンパクトシリーズ第2弾として今年1月に「北米国際自動車ショー」で公開した「URBAN SUV CONCEPT」の市販予定モデルを世界初披露する。また、「楽しさ」と「低燃費」を高次元で両立させた新世代パワートレイン技術「EARTH DREAMS TECHNOLOGY（アース・ドリームス・テクノロジー）」を搭載し好評を得ている車種をはじめ、多数のモデルを展示する。

### ◇Honda S660 CONCEPT

参考出展車



ダイナミックな先進のスタイリング、ドライバーの空間を徹底的に追及したスーパーコックピットインテリアなどの斬新な試みを随所に施した次世代軽オープンスポーツモデル。



Honda S660 CONCEPT

### ◇NSX CONCEPT

参考出展車



軽量なボディに次世代の直噴V型6気筒エンジンをミッドシップレイアウトで配置し、走りと燃費性能を両立した高効率・高出力のハイブリッドシステム「SPORT HYBRID SH-AWD<sup>®</sup> (Super Handling-All Wheel Drive)」を搭載したスーパースポーツモデルである。エクステリアデザインはロー&ワイドで力強くなめらかなスタイリングを実現し、インテリアデザインのコンセプトはヒューマン・サポート・コックピットとし、広い視認性やドライビングポジションを確保している。



NSX CONCEPT

◇N-WGN

参考出展車



軽乗用車「N」シリーズの第4弾モデルとなるN-WGN。



N-WGN

◇URBAN SUV CONCEPT

参考出展車



グローバルコンパクトシリーズ第2弾として今年1月に「北米国際自動車ショー」で公開した「URBAN SUV CONCEPT」の市販予定モデルを世界初披露する。この市販予定モデルは、日本で今年12月に発表する予定である。



URBAN SUV CONCEPT

## マツダ株式会社

マツダ株式会社（以下、マツダ）は、国内で発売する新型『マツダ アクセラ』に、異なるエンジン・燃料方式を採用した複数のモデルを出品し、マルチソリューションを提案する。また、SKYACTIV（スカイアクティブ）技術及びデザインテーマ「魂動（こどう）」を採用したクロスオーバーSUV『マツダCX-5』や新世代フラッグシップモデル『マツダ アテンザ』を出品するなど、最新の市販車や技術も出品する。今回のマツダの出品テーマは、「Be a driver.～マツダは『走る歓び』で世界へ挑む」である。このテーマは、環境性能とダイナミックパフォーマンスを大きく向上させる「SKYACTIV」技術、力強い生命力・躍動感を表現するデザインテーマ「魂動」、マツダの安全思想「マツダ・プロアクティブ・セーフティ」、新世代カーコネクティビティシステム「MAZDA CONNECT（マツダ コネクト）」を4つの柱として、今後もマツダはより多くのお客様に「走る歓び」を体感いただけるクルマづくりをめざすことを表している。

### ◇新型 マツダ アクセラ

「SKYACTIV」技術とデザインテーマ「魂動」を採用するとともに、先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」や新世代カーコネクティビティシステム「MAZDA CONNECT」を搭載。マツダの最新技術を織り込むことにより、「走る歓び」を提供するマツダの最新モデル。国内メーカー初となる、単一車種でガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、ハイブリッドシステムといった3種類のパワートレインを国内市場に導入。



新型 マツダ アクセラ

### ◇Mazda3 SKYACTIV-CNGコンセプト

### 参考出展車

グローバルに需要が高まっている圧縮天然ガス（CNG）技術を採用、ガソリンとのデュアルフューエル方式を採用したモデル。高圧縮比を特徴とするSKYACTIV-Gエンジンは、高圧縮状態で燃焼させるCNGエンジンのベース技術として適しており、少ない変更によるCNGエンジンへの転用が可能。また、CNGエンジン車は、同排気量のガソリンエンジン車比でCO<sub>2</sub>排出量を2割前後削減できる特長があり、より多くのお客様にクリーンかつ「走る歓び」を提供するクルマとして提案。



Mazda3 SKYACTIV-CNGコンセプト

## ◇マツダ CX-5

SKYACTIV技術及び魂動デザインを採用したマツダの新世代商品第1弾となったクロスオーバーSUV。力強く躍動感に満ちたデザイン、意のままに操る楽しさを提供する走行性能、乗員全員が快適に楽しく使えるパッケージング、優れた環境・安全性能を特長とし、日本カー・オブ・ザ・イヤー<sup>\*1</sup>をはじめとした、さまざまな賞を世界中で受賞。2012年国内SUV市場において販売台数第1位を記録。<sup>\*2</sup>



マツダ CX-5

\*1 「2012-2013日本カー・オブ・ザ・イヤー」。日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催。

\*2 マツダ調べ（2013年1月時点）。国内SUV市場とは、日本自動車販売協会連合会（自販連）の区分で“オフロード4WD”タイプに分類される国産モデル（一部2WDモデルも含む）。

## ◇マツダ アテンザ

上質でスポーティなデザインと走り、優れた環境・安全性能を実現したマツダの新世代フラッグシップモデル。マツダ独自の減速エネルギー再生システム「i-ELOOP（アイ・イーラープ）」や走る喜びをサポートする先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」を採用するなど、すべての領域でマツダの技術とこだわりを注ぎ込んだモデル。



マツダ アテンザ

## ◇マツダ アテンザ ASV-5

### 先進安全自動車

先進の安全運転支援システムを搭載。その一部として、自律型車載センサーを用いた世界初の路面電車との通信により、接触事故を未然に防ぎ、安全で円滑な運転を支援するシステムも採用。環境にやさしい公共交通手段として見直されている路面電車とクルマとの安全な連携をめざす。ITS<sup>\*3</sup>を活用した公道実証実験を2013年9月から実施。10月に開催された「第20回ITS世界会議東京2013」においてもデモンストレーション走行を実施。



マツダ アテンザ ASV-5

\*3 Intelligent Transport Systems（高度道路交通システム）の略で、最先端の情報通信技術を用いて人と道路と車両とを情報でネットワークすることにより、交通事故、渋滞、環境負荷などといった道路交通問題の解決を目的に構築する新しい交通システム。

## 三菱自動車工業株式会社

三菱自動車は、「環境への貢献」「走る喜び」「確かな安心」を実現する次世代先進技術「@earth TECHNOLOGY」を採用し、SUVの機能性と安心感を象徴する新たなデザインを取り入れた3台のコンセプトカーを世界初披露する。『MITSUBISHI Concept GC\*<sup>1</sup>-PHEV』は、高出力なPHEVシステムを搭載し、SUVらしい力強い走りとクラストップレベルの環境性能を両立した次世代ラージSUVのコンセプトカーである。車両運動統合制御システム「S-AWC」により、優れた操縦安定性とSUVならではの走破性を実現。また、情報連携サービスを活用した次世代の予防安全技術や運転支援技術を採用している。『MITSUBISHI Concept XR\*<sup>2</sup>-PHEV』は、軽量・高効率なPHEVシステムを搭載し、環境性能を飛躍的に高めた次世代コンパクトSUVのコンセプトカーである。スペシャリティクーペ感覚のフォルムにふさわしい、軽快なフットワークを実現している。『MITSUBISHI Concept AR\*<sup>3</sup>』は、ダウンサイジングコンセプトを取り入れた直噴ターボエンジンをはじめ、最新の低燃費化技術を採用し、SUVの機動性とMPVの居住性を両立した次世代コンパクトMPVのコンセプトカーである。乗員を包み込むようなインテリアと多彩なシートアレンジなど、寛ぎの空間を提供する。

\*1…GC: Grand Cruiserの略。 \*2…XR: X (cross) over Runnerの略。 \*3…AR: Active Runaboutの略。

### ◆MITSUBISHI Concept GC-PHEV

参考出展車



#### ●コンセプト

地球上のあらゆる道を安全・快適に走り抜く次世代ラージSUV。

- ・スーパーチャージドMIVECエンジン、高出力モーター、8速オートマチックトランスミッション、大容量バッテリーで構成するFRタイプのプラグインハイブリッドEVシステムで、力強くゆとり溢れる動力性能を実現。
- ・走行状況やバッテリー残量に応じてEV走行とハイブリッド走行を自動選択。PHEVならではの優れたレスポンス、滑らかな加速フィーリング、高級車並みの静粛性を実現。
- ・四輪の駆動力と制動力の制御を軸とした車両運動統合制御システム「S-AWC」を搭載。卓越した操縦安定性と走破性により、安全・快適な走りを実現。
- ・次世代の情報システムを活用したコネクティッドカー技術と予防安全技術「e-Assist」を組み合わせることで常に安心、安全、便利で快適なドライブをサポート。  
また、コネクティッドカーとして新たな可能性を追求し、AR技術を利用した「AR ウインドシールド」、室内中央にレイアウトされたタッチスクリーン式大型インターフェイス「タクティカルテーブル」などの新しい試みを採用。

#### ●デザイン

オールラウンドSUVにふさわしい力強さと、先進感・安心感を表現したデザイン。



MITSUBISHI Concept GC-PHEV

## ◇ MITSUBISHI Concept XR-PHEV

参考出展車



### ●コンセプト

“走る歓び”の新次元を開くコンパクトSUV

- ・実績のある『アウトランダーPHEV』のシステムをベースにFF化、ダウンサイジングコンセプトを採用した直噴ターボチャージドMIVECエンジン、軽量・小型・高効率モーター、大容量バッテリーを搭載し、俊敏で軽快な走りを実現。
- ・走行状況やバッテリー残量に応じてEV走行、シリーズ走行、パラレル走行モードを最適に自動選択しながら燃費と走りを追求。
- ・次世代の情報システムを活用したコネクティッドカー技術と予防安全技術「e-Assist」を組み合わせることで常に安心、安全、便利で快適なドライブをサポート。

### ●デザイン

アスリートのような走りを想起させるエクステリア、ドライビングスピリットを刺激するインテリア。



MITSUBISHI Concept XR-PHEV

## ◇ MITSUBISHI Concept AR

参考出展車



### ●コンセプト

新発想・新設計のアクティブなコンパクトMPV

- ・ダウンサイジングコンセプトを採用した直噴ターボチャージドMIVECエンジンに駆動回路一体型のベルト駆動スターター・ジェネレーターを組み合わせた軽量のマイルドハイブリッドシステムを搭載。ボディや内装の軽量化と相まって、心地良い快適な走りを実現するコンパクトMPV。
- ・SUVテイストのコンパクトMPV。多人数でアクティブに楽しめる、あるいは乗員が個々で楽しめるユニークなシートアレンジとコネクティッドカー技術による新発想のユーティリティにより、新しいカーライフを提案。
- ・次世代の情報システムを活用したコネクティッドカー技術と予防安全技術「e-Assist」を組み合わせることで常に安心、安全、便利で快適なドライブをサポート。

### ●デザイン

SUVならではの機動性と安心感、MPVならではの心地良い空間を融合。



MITSUBISHI Concept AR

## 三菱ふそうトラック・バス株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社は、今回、女性社員有志で、女性の目線から開発したトラックとして、「キャンター エコ ハイブリッド “Canna”（カンナ）」を参考出品として出展するとともに、日本初公開となるアジア・アフリカ向け戦略車の中型トラック「FI」や、快適性を追求した大型観光バス「エアロクイーン Premium Cruiser」など合計7台を展示する。また技術展示では、ハイブリッド用モーター内蔵デュアルクラッチ式トランスミッション「DUONIC<sup>®</sup>」などを展示する。

### ◇小型トラック キャンター エコ ハイブリッド Canna（カンナ） 参考出展車

“女性の 女性による 女性のためのトラック。”三菱ふそうの女性社員有志がプロジェクトを立ち上げ、女性の視点に立ち、外観デザインから内装に至るまで企画した、エコでキュートな小型ハイブリッドトラックである。



キャンター エコ ハイブリッド Canna（カンナ）

### ◇小型トラック キャンター エコ ハイブリッド Moving Pit 参考出展車

三菱ふそう全国のサービス体制において、路上故障に幅広く対応できる修理サービスカー（愛称：“Moving Pit”）を主要拠点に配備している。次世代モデル「キャンター エコ ハイブリッド Moving Pit」は、ベース車両を環境に配慮した「キャンター エコ ハイブリッド」に変更するとともに、緊急対応可能な装備として、エアーコンプレッサー、発電機、溶接機、エンジンオイル交換機等を搭載し、故障車両のトラブルに幅広く対応している。



キャンター エコ ハイブリッド Moving Pit

### ◇小型トラック キャンター T90 レストア車両 参考出展車

キャンターは、1963年に初代モデルが誕生し、本年で50周年を迎えた。その中で、2代目のT90シリーズは、1970年7月に発売を開始。今回展示するT91Aは、エンジンラインナップをディーゼル75馬力、ガソリン90馬力、95馬力を持ち合わせており、当時としてはクラス最高水準の加速性や荷台面積を実現した1台である。



キャンター T90

◇中型トラック FI

国内初公開 参考出展車

ダイムラー・トラック部門としてMFTBCとインド・チェンナイにある Daimler India Commercial Vehicles Pvt. (以下、DICV社) の二つの拠点が中心となり開発したプラットフォームをもとに、「FUSO」ブランドのアジア・アフリカ向け戦略車として、車両総重量9~16tの中型トラック「FI」を開発した。これらの車両を2013年4月からDICV社オラガダム工場にて生産を開始、すでにケニア・スリランカ・ザンビアの各国で販売を開始している。



FI

◇中型トラック ファイター Dump

市販車

「ファイター Dump」は、ダンプトラックに求められる力強い走りと、耐久性を兼ね備えた「6M60」型直列6気筒7.5リットルインタークーラーターボエンジンを搭載。常用回転域のトルク性能を大幅に向上させるとともに、動力性能及び燃費も向上させた。また、環境に優しい「BlueTec<sup>®</sup>システム」(DPF+尿素SCR)との組み合わせで、PM、NO<sub>x</sub>の大幅低減の実現と、燃費向上によるCO<sub>2</sub>削減の両立に成功した。



ファイター Dump

◇大型トラック スーパーグレート FUEL EFFICIENT TRUCK 参考出展車

「スーパーグレート FUEL EFFICIENT TRUCK」は、新型ドラッグフォイラーなどの空力の最適化、軽量ボデーの採用、太陽電池をはじめとする電力の管理、低転がり抵抗タイヤの採用などの技術を総合し、従来型ディーゼルトラックと比較し、約10%以上の燃費改善効果を得ることができた(社内実験値)。採用技術については、「スーパーグレート」の量産車に一部採用している。



スーパーグレート FUEL EFFICIENT TRUCK

◇大型観光バス エアロクイーン Premium Cruiser

参考出展車

世界各地で豪華ツアーが好評を博している中、バスツアーにおける快適性を追求した大型観光バス「エアロクイーン Premium Cruiser」を開発した。飛行機のビジネスクラスに匹敵する一人掛け独立シートを13席配置し、通常55人乗りの定員を、ゆとりの13人乗りとした。また、室内では、夜間照明として星空が浮かび上がるとともに、最高級の音響設備で、移動中にリラックスできる空間をバスの車中で提供する。また、ベース車である「エアロクイーン」には安全装備として、衝突被害軽減ブレーキ「AMB」(Active Mitigation Brake)、運転注意力モニター「MDAS-III」を標準装備しており、安全面でも最大限配慮した車両である。



エアロクイーン Premium Cruiser

## UDトラックス株式会社

UDトラックス株式会社は、「Going the Extra Mile その一步先へ」をテーマに、省燃費性能、稼働率の向上、コスト効率に焦点を当てた展示を行う。主な展示内容は、車両展示として、世界初公開となる実験車両「クオン・フューエル・デモンストレーター (Quon Fuel Demonstrator)」、UDトラックスのフラッグシップトラック大型「クオン (Quon)」、2013年に新発売した新興国向け大型トラック「クエスター (Quester)」を展示する。コンポーネント展示として、エンジンの展示では、iPadを使用してインタラクティブに低燃費エンジンのメカニズムを紹介。また、お客様から定評のあるトランスミッションESCOT-V (エスコット-V) のカットモデルの展示や、上尾工場のエンジン組み立てラインで実際に使用しているAGV (無人搬送台車) にGH11型エンジンを取りつけて展示し、UDトラックスの先進的なエンジン組み立てのようすを再現する。その他、省燃費ゲームステーションやゲームの紹介を行う。

### ◇クオン・フューエル・デモンストレーター (Quon Fuel Demonstrator)



クオン・フューエル・デモンストレーターは、UDトラックス独自の技術と発想でお客様のビジネスにより確かな成功をお届けするため、燃費性能向上の追求を目的として開発された実験車両である。遠い未来ではなく近い未来に幅広い用途で省燃費が図れるよう、主に3つの領域【1) クオンCD 25トンのカーゴに用いる11リットルエンジンを小型化することで効率的なドライブラインを実現、2) より優れた省燃費走行をめざしてエアロダイナミクスのデザインを改善し、空気抵抗を軽減、3) ADAS (Advanced Driver Assistance Systems) と呼ぶシステムでGPSや地図データを活用し、前方の坂道やカーブを認識する技術を用いてドライバーの省燃費運転を支援】に焦点を当てて開発した。



クオン・フューエル・デモンストレーター  
(Quon Fuel Demonstrator)

## ◇クオン (Quon)

クオンは日本市場向けを中心とする先進国市場向けに開発された大型トラックである。12速電子制御トランスミッションの代名詞となったESCOT-V (エスコット-V) による優れた走行性能をはじめ、UDインフォメーションサービスや同サービスのひとつである省燃費運転支援システム「燃費王」による稼働率・熱費向上へのサポート、徹底した環境性能と安全性、積載率の向上、充実したアフターサービスなどを誇るクオンは、TCO (Total Cost of Ownership = 顧客の車両総保有コスト) の削減を図り、お客様のビジネスの発展を多角的に支えるUDトラックスのフラッグシップトラックである。



クオン (Quon)

## ◇クエスター (Quester)

クエスターはUDトラックスが初めてアジアを中心とする新興国向けに開発し、国外で一貫生産を行う新大型トラックである。新興国のさまざまなニーズに応えるために4x2から8x4までの7種の幅広い車種と、車種間の共通プラットフォームを採用し、長距離輸送や配送、建設現場、鉱山開発などの幅広い用途に対応している。また、パワートレインの最適化や省燃費運転支援システム、空気力学的に設計されたキャブなどにより、低燃費で経済的な輸送を可能にしている。クエスターは、UDトラックスの生産技術とボルボ・グループの先端技術の組み合わせにより、高性能、低燃費、高稼働率を誇る新世代のトラックである。



クエスター (Quester)

## 川崎重工業株式会社

カワサキブースでは、東京モーターショーのテーマにもある「世界にまだない未来」を見据え、川崎重工業グループの技術を結集して作り上げた新たなテクノロジーを紹介する。量産モデルの展示では、カワサキが誇る最先端のスポーツバイク「Ninjaシリーズ」、ライダーを刺激する先鋭のネイキッドバイク「Zシリーズ」を中心に、ワールドプレミアモデル、ジャパンプレミアモデルを多数用意した。カワサキ最新モデルに間近に触れることで、その独自の世界観を楽しんでいただけるだろう。さらに、2013年シーズンを大いに沸かせたカワサキのレーシングマシン、スーパーバイク世界選手権チャンピオンを獲得した「Ninja ZX-10R」と、AMAモトクロス・スーパークロスの両選手権を制覇した「KX450F」を展示する。カワサキのチャレンジングスピリットと、ライムグリーンに込めた思いを感じていただきたい。

### ◇Z1000 ABS

参考出展車



「凄み」をキーワードに、斬新なスタイリングとエキサイティングな運動性能を実現したネイキッド・スポーツモデル。低く配置され鋭い眼光を放つ4灯式LEDヘッドライト、力強く盛り上がったフューエルタンク、鋭く跳ね上がったテールカウルが、獲物を狙う猛獣を連想させるダイナミックなフォルムを作り出す。高められた加速性能と、俊敏なスロットルレスポンスの1,043cm<sup>3</sup>水冷4ストローク並列4気筒エンジンは、迫力の吸気音でライダーのスポーツマインドを刺激。先進のサスペンションシステム「SFF-BP」の採用や、重量物を車体重心に近づける独創的なレイアウトにより、ダイレクトでスポーティなハンドリングが楽しめる。



Z1000 ABS

### ◇Ninja 400 ABS

参考出展車



スポーティさと快適性を絶妙にバランスさせた、ミドルサイズのオールラウンドスポーツ。シャープなヘッドライトと角度調整機能付きウインドスクリーン、エンジン下に配置したマフラーや短いリアカウルがアグレッシブでスポーティなスタイリングを演出。399cm<sup>3</sup>水冷4ストローク並列2気筒エンジンは、低中速回転域のパフォーマンスを高めるとともにダイレクトなスロットルレスポンスを実現している。新設計のダブルパイプフレームによるボディのスリム化と、サスペンション設定の変更により軽快なハンドリングを提供。視認性に優れたLEDバックライト付き液晶メーターやクッション性の高いシートなど快適装備も充実している。



Ninja 400 ABS

## ◇Ninja 1000 ABS

参考出展車



スーパースポーツモデルの魅力と実用的な機能を兼ね備えたNinja 1000。進化した1,043cm<sup>3</sup>水冷4ストローク並列4気筒エンジンは、中速回転域の加速感と操る楽しさを高めた。走行環境に合わせてモードが選べるトラクションコントロールシステム、KTRC（3モード）と、ライダーの好みによってエンジンの出力特性を選べるパワーモードなど、走りの幅を広げる最新電子制御技術を搭載。外観はNinjaにふさわしいアグレッシブなフルカウルを装着する。好評の角度調整機能付きウインドスクリーンに加え、車体との一体感と使い勝手を高めたパニアケース（アクセサリー）を新作するなど、実用面の充実も図っている。



Ninja 1000 ABS

## ◇Ninja 250 ABS

アクティブなライダーの要望に応えた、オールラウンドなスポーツモデル。高い剛性を持つダイヤモンド構造の鋼管フレームを採用し、高い走行性能と扱いやすさを実現している。エンジンは、軽量・コンパクトな248cm<sup>3</sup>水冷4ストローク並列2気筒エンジンを搭載し、低中速回転域の力強さと高速回転域でのスムーズさを両立。Ninjaシリーズ特有のアグレッシブな外観に加え、車体細部に至る上質な造りこみにより従来の250ccクラスを超えた所有感も追求している。「Special Edition」は、カウル各部にスポーティかつ質感の高いグラフィックを施し、ホイールリムに赤いストライプを配した特別仕様車である。



Ninja 250 ABS

## ◇Z250

力強く、逞しい、存在感のあるデザインと、優れたパフォーマンスを兼ね揃えたネイキッド・スポーツモデル。Zシリーズ特有のアグレッシブなフロントフェイスが見る人に強烈なインパクトを与え、車体細部に至る上質な造りこみが250ccクラスを超える所有感をもたらす、デザイン性の高いモデルである。高剛性なダイヤモンド構造の鋼管フレームにアップライトで操作しやすいワイドバーハンドルを組み合わせ、優れた走行性能と扱いやすさを実現。低中速回転域での力強さと高速回転域でのスムーズさを両立する248cm<sup>3</sup>水冷4ストローク並列2気筒エンジンは、市街地での扱いやすさとスポーツライディングの楽しさをもたらす。



Z250

## スズキ株式会社

スズキブースは「新しい物語をつくろう。」をテーマに、スズキは、私たちの「商品」と「技術」を通して、世界のさまざまな地域のお客様に、ワクワクする『新しい物語』をつくっていただきたいという思いをカタチにして提案する。今回のブースでは、メインステージに、小型電動バイク「EXTRIGGER(エクストリガー)」、そして二輪のコンパクトロードスター「Recursion(リカージョン)」などの参考出品車を展示する。ブースの天井を高く上げ、明るい未来を象徴するような全体に開放感を持たせたデザインになっており、3.6m×40mの超ワイドパノラマスクリーンによる映像、ブース内に設置した回転展示台などを組み合わせた演出で、車両の展示をさらに魅力的に彩る。

### ◇Recursion(リカージョン)

#### 参考出品車



大人のこだわりを盛り込んだコンパクトロードスター「Recursion(リカージョン)」。

- ・新設計の588cm<sup>3</sup>直列2気筒エンジンにインタークーラターボを組み合わせることで、リッタークラス並みの性能と低燃費を実現した。
- ・こだわり抜いた高品質なパーツが、工芸品のような美しさを演出する。



Recursion(リカージョン)

### ◇EXTRIGGER(エクストリガー)

#### 参考出品車



新感覚の遊びを提案する電動ミニモト「EXTRIGGER(エクストリガー)」。

- ・小型自転車のようなコンパクトな車体に電動ユニットを搭載した。
- ・「玩具感覚」でありながら、アルミフレームや倒立フロントフォーク、前後ディスクブレーキなど、「小さいけれど本格的」な装備である。



EXTRIGGER(エクストリガー)

### ◇V-Strom(ストローム) 1000 ABS

#### 参考出品車



スポーツアドベンチャーツアラーのフラッグシップモデル「V-Strom(ストローム) 1000 ABS」。

- ・エンジン、車体など前モデルから大幅に見直し、スポーツアドベンチャーツアラーの醍醐味であるさまざまな走行への適応、操る楽しさや長距離移動の快適性を提供すべく開発した。
- ・スズキ二輪車初のトラクションコントロールシステムをはじめ、ABSを標準装備している。



V-Strom(ストローム) 1000 ABS

◇ハヤブサ〈JAPANモデル〉

参考出展車



スズキが誇るフラッグシップモデル「ハヤブサ」のJAPANモデル。

- ・日本の認証基準をクリアしながら、海外モデルと同等の出力特性を実現した。
- ・日本仕様では、二輪車で初めて\*ETC車載器を標準装備した。



ハヤブサ〈JAPANモデル〉

\*2013年10月現在、スズキ調べ

◇GSR250S

参考出展車



人気のGSR250にハーフカウル仕様を設定「GSR250S」。

- ・高い防風効果を発揮する新設計のハーフカウルを装備し、高速走行等のクルージングを快適にした。
- ・ハンドル位置を高く、手前に変更することで前傾の少ない乗車姿勢を実現し、ツーリング等での快適性をより高めている。



GSR250S

◇バーグマン200

参考出展車



ライトでコンパクトな瞬速スクーター「バーグマン200」。

- ・250cm<sup>3</sup>クラスのスクーターに匹敵する快適性と機能性を実現したコンパクトな車体に、200cm<sup>3</sup>のエンジンを採用した。
- ・多機能メーターの採用や足つき性を高めたフロアボード形状と低いシート高を実現するなど、日常での使い勝手を追求した。



バーグマン200

◇モトGP参戦開発車両

参考出展車



モトGP参戦開発車両

- ・2015年のモトGP復帰に向けて開発中の「モトGP参戦開発車両」を出品する。
- ・GSX-Rで長く培ってきた素直な操縦性を発揮できるよう、直列4気筒エンジンで開発を進めている。
- ・最大出力のみを追いかけるのではなく、扱いやすいエンジン特性を心掛け、力強い加速ができる車両をめざしている。



モトGP参戦開発車両

## 本田技研工業株式会社

Hondaは、「枠にはまるな。」をブースコンセプトに、常識や前例にとらわれないHondaの斬新で自由な発想が生んだ独創のモビリティを提案する。Hondaは、挑戦を続けることで、これまでにないモビリティを創造し、「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現に向け、世界中のお客様に常に夢のある商品を提供していく。二輪車は、ニュースタイル50ccスクーター「Dunk（ダンク）」や「CB1300 SUPER BOL D'OR」などの市販予定車を含む各種モデルを出展する。出展各社の中で、単一ブランドとしては最大面積となるブースに、Hondaならではの多彩なラインアップを取り揃える。その他、「人との調和」をテーマにしたパーソナルモビリティ新型「UNI-CUB」を出展する。

### ◇Dunk

参考出展車



新開発の水冷エンジンを搭載したニュースタイル50ccスクーター「Dunk（ダンク）」。



Dunk

### ◇CB1300 SUPER BOL D'OR

参考出展車



LEDヘッドライトや6速ミッションなどの採用により、さらに魅力を高めた「CB1300 SUPER BOL D'OR」。



CB1300 SUPER BOL D'OR

◇新型UNI-CUB <Honda Robotics>

参考出展車



人との調和をめざし、人の歩行のような全方位への自由自在な動きと、人の行き交う場所に適応するコンパクトなサイズを両立した新たなパーソナルモビリティ。新型「UNI-CUB」は、小型及び軽量化を図るとともに乗降性や安心感を向上させ、実用化に向けてより幅広い層の利用をめざした。



新型UNI-CUB

## ヤマハ発動機株式会社

ヤマハ発動機株式会社はパーソナルモビリティのスペシャリストとして「広がるパーソナルモビリティの世界」をキーコンセプトに、楽しい乗り物の世界を提案する。北米市場に先行発売され、日本市場でも発売された950cc新型クルーザー「BOLT」と、新開発の850cc直列3気筒エンジンを搭載した欧州向けスポーツモデルの新製品「MT-09」を展示する。また、10月に国内市場に投入された新開発155ccエンジンを搭載した軽二輪スクーターの新製品「マジスティS」も展示する。

### ◇BOLT

「BOLT」は、“Best for Urban Fun Ride!”をコンセプトに、北米市場の二輪車総需要約50万台<sup>\*1</sup>のうち、約半分を占める「クルーザー」カテゴリ<sup>\*2</sup>に投入された新製品で、次世代アンダー1000ccクルーザーを担うモデルである。当社の新中期経営計画（2013年～3ヵ年）にある“先進国・二輪車事業におけるラインナップ充実”を具現化する2013年発表の新製品第1弾となる。主な特徴は、既存モデル「XVS950A」をベースに、吸排気系とFIのセッティングなどを一新したエンジンと、新設計フレームによるスリム&コンパクトな車体を融合し、都市部における低速域からの優れた加速性と軽快な走りを実現していることである。また、塊感がある力強いスタイルに、細部にわたる金属の素材感を醸し出す仕上げを施し、シンプルなレイアウトの中に力強さを表現している。



BOLT

\*1、\*2：2012年、ヤマハ調べ

※北米市場に先行発売されたモデルで、2013年11月より国内発売される。

## ◇MT-09

「MT-09」は“Synchronized Performance Bike”のコンセプトのもと、欧州二輪車市場のメインカテゴリ「ロードスポーツ」クラス、なかでも近年伸長傾向の700～999ccクラスに導入された新製品である。なお、本製品は当社の新中期経営計画（2013年～3ヵ年）にある“先進国・二輪車事業におけるラインナップ充実”を具現化する新製品第2弾となる。また、クロスプレーンコンセプトに基づく新開発エンジンは、先進国向けモデルの核となるコンポーネントのひとつとして、高性能で魅力ある当社らしいプラットフォーム展開を担う予定である。主な特徴は、1) 新開発、リニアな特性を備える直列3気筒エンジン、2) 徹底した軽量設計による188kgボディ、3) ネイキッドとスーパーモタードの“異種混合”ハイブリッド・デザイン、などである。日常の速度域で乗り手の意思とシンクロする“意のままに操れる走りの悦び”を提唱している。



MT-09

## ◇マジスティS

「マジスティS」は“Next Generation Fun to Ride Commuter”をコンセプトに開発したモデルである。1995年の初代モデルの発売以降、ビッグスクーター市場を牽引する250ccスクーター「マジスティYP250」の高い走行性能とデザイン性を受け継ぎ、スポーティな走行性能、都市部で扱いやすいコンパクトなボディサイズと高い利便性、新世代を予感させるスタイリングなどが特徴である。



マジスティS

## 第43回東京モーターショー2013のイベント

“世界一のテクノロジー・モーターショー”をめざし、クルマ・バイクの魅力をさらに多くの人に伝えていきたいという意気込みを示すショーテーマを掲げた第43回東京モーターショー2013の各イベントを紹介する。

**「世界にまだない未来を競え。」 “Compete ! And shape a new future.”**

### ◇お台場モーターフェス【新規開催】

今回、新たな取り組みとして、より多くの若者やファミリー層に、クルマ・バイクに触れてその魅力を感じてもらおうイベント「お台場モーターフェス」を実施する。

#### ■実施概要（予定）

名 称	お台場モーターフェス with The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013
実施期間	11月16日（土）、17日（日） 11月23日（土）～12月1日（日）
実施場所	NOP地区、MEGA WEB ほか お台場エリア各所
主 催	一般社団法人 日本自動車工業会
共 催	臨海副都心まちづくり協議会
後 援	国土交通省、東京都、フジテレビジョン
入 場 料	無料

#### ■ODAIBAモーターパレード

往年のレジェンドカー・バイクからレーシングカーまで、多彩なクルマがお台場の街を走行。

クルマ・バイクの歴史がここに集まり、お台場モーターフェスの開催を彩る。

実施日：2013年11月16日（土）12：00～12：20

コース（約2.4km）お台場NOP駐車場出発→台場交差点・折り返し→お台場NOP駐車

#### ■シルク・ド・モビ

お台場モーターフェスのメインイベント。モータースポーツで活躍中の一流パフォーマーである「チームオレンジ」全面協力のもと、サーカスのようにダイナミックに魅せるクルマとバイクのショーを披露する。人気キャラクターのガチャピンも登場しショーを盛り上げる。

実施日：11月16日（土）×3回、17日（日）×3回

場 所：お台場NOP駐車場

#### ■サービスエンジニア体験イベント

～これからのサービスエンジニアを体験～「自分の将来を見つけに行こう！」

日本科学未来館において、高校生などの若者向けに、これからのサービスエンジニアの仕事について体験できる『キットカーの組立てや自動車のコンピューター診断』コーナーを設置する。

日 程：11月23日（土）～12月1日（日） ※11月26日（火）は休館

時 間：10：00～17：00

場 所：日本科学未来館 企画展示ゾーンa

※サービスエンジニア体験ゾーンは入場無料（常設展示等は有料）

受付：組立て体験や試乗は当日受付で先着順（整理券配布）

対象：高校生（小中学校生を含む一般来館者）

■お台場エリア各所での車両展示

国内メーカーの最新モデルをダイバーシティ前広場やセンタープロムナード等で展示する。

ダイバーシティ前：11月16日（土）～17日（日）、23日（土）～12月1日（日）

センタープロムナード：11月16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）

■雑誌連合による主な企画及び関連企画

自動車専門誌に雑誌連合を組織してもらい、MEGAWEBを主な会場としてさまざまなイベントを運営していただくとともに、その他の関連企画も実施。

◇特別企画

■乗用車・二輪車試乗会

・プロの運転による同乗体験試乗会

日本モータースポーツ推進機構の運営協力による、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）のジャーナリストによる同乗試乗会は、クルマ本来の性能を体感していただき、かつ体験者数をできる限り増やすことを目的に、会場内のクローズドコース（屋外展示場）で実施する。

日程：11月22日（金）～26日（火）

時間：10：00～16：30 ※16：00以降は要点灯

場所：屋外展示場内

試乗券：当日受付による

参加ブランド：スズキ、スバル、トヨタ、日産、ホンダ、マツダ、三菱、レクサス、アウディ、シトロエン、ジャガー、BMW、フォルクスワーゲン、プジョー、ポルシェ、ボルボ、MINI、メルセデス・ベンツ、ランドローバー、ルノー、テスラ



プロの運転による同乗体験試乗会（前回の東京モーターショー2011での様子）

### ・二輪車試乗会

第41回ショー（2009年）での実施から継続し、前回第42回ショーと同様の運営方式により、会場内のクロードコース（屋外展示場）にて実施。試乗会場にはビギナー向けの専用コースも設けて実施。

日 程：11月28日（木）～12月1日（日）

時 間：10：00～16：00 ※日没前に終了

場 所：屋外展示場内

試 乗 券：当日受付、先着順による

参加ブランド：川崎、スズキ、ホンダ、ヤマハ、KTM、BMW



二輪車試乗会（前回の東京モーターショー2011でのまよう）

### ・電動アシスト付き自転車試乗会

日 程：11月28日（木）～12月1日（日）

時 間：10：00～16：00 ※日没前に終了

場 所：屋外展示場内

試乗券：当日受付、先着順による試乗

### ■自動車ジャーナリスト（AJAJ）と巡る東京モーターショー

日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）の会員有志がガイドとなり、参加者に対し専門家の視点でモーターショーとクルマの魅力をガイドする有料ツアーを実施。

日 程：11月25日（月）～29日（金）（5日間）

各4回 ①9：30～11：30 ②12：00～14：00 ③14：30～16：30 ④17：00～19：00

参加予定人数：1回当たり5グループ（1グループ10名とし、1～2名のジャーナリストが同行）

#### ・スタンダードコース×2グループ

これからクルマに乗る人も、これまで乗ってきた人も、クルマのことをもっと知りたい、みどころを教えてほしいなど、東京モーターショーをもれなく楽しみたい方向けのコース。

#### ・クルマ好きコース×3グループ

クルマ雑誌を愛読している、クルマにこだわりがある、深い部分をもっと知りたいなど、東京モーターショーとクルマの表も裏も楽しみたい方向けのコース。

参 加 申 込：「オンラインチケットサービス（e-tix）」にて販売。（定員になり次第販売終了）

参 加 費：2,000円（消費税込：ガイドツアー参加券700円＋東京モーターショー前売入場券1,300円）

■東京モーターショーシンポジウム2013（会議棟6階）

クルマをめぐる社会的に関心の高いテーマを取り上げたシンポジウムを開催する。参加費は無料だが、東京モーターショーの入場券が必要。

日 程		実施者	テーマ
11月26日（火） 事前登録者優先	13：00～ 17：00	特定非営利活動法人 ITS Japan 申込受付： <a href="http://its-jp.org/">http://its-jp.org/</a>	第8回日本ITS推進フォーラム Open ITS to the Next - ITS 世界会議東京2013からはじまる次世代 ITS
11月26日（火）	13：30～ 16：30	国土交通省 自動車局	未来の輸送ビジネスが始まる。 “安全・安心×ヘルスケア×ICT連携 の新たなビジネスストーリー”
11月27日（水） 事前登録者優先	13：00～ 17：00	特定非営利活動法人 ITS Japan 東京大学ITSセンター 申込受付： <a href="http://its-jp.org/">http://its-jp.org/</a>	ITSセミナーin東京 2020年、東京の都市交通を考える ～ITSの未来
11月28日（木） 当日現地受付先着順	13：00～ 15：30	一般社団法人 日本自動車工業会 後援予定：内閣府、警察庁、国土交通省	飲酒運転防止についてのシンポジウム
11月29日（金）	14：00～ 17：00	経済産業省 ピンクホイールプロジェクト 一般社団法人 次世代自動車振興センター	女性視点が次世代のクルマ社会を創る ～わたしとクルマのイイ関係～
11月30日（土） 事前登録者優先	15：30～ 17：30	カーたび（自動車旅行推進機構） 申込受付： <a href="http://cartabi.jp/topics/index.php?itemid=56">http://cartabi.jp/topics/index.php?itemid=56</a>	クルマで歩こう～今日からあなたも カーたびスト～
12月1日（日） 事前登録者優先	13：00～ 16：00	国土交通省 自動車局 申込受付： <a href="http://www.jari.or.jp">http://www.jari.or.jp</a>	第14回自動車安全シンポジウム

※上記は予定のため変更になる場合がある。

■日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)によるガイダンス付小中学生特別見学

第34回ショー（2000年）より継続して行っている、小中学生を対象にした特別見学日を設定。

■ステージイベント

西展示棟アトリウム内にイベントステージを設置し、魅力ある内容で展開。

■Best of 未来

来場者に20世紀生まれと21世紀生まれの2部門に分かれて審査員となっただき、「未来を感じる」「こんな未来がいい」といった観点から、出展物などを対象に会場内に設置するブースにて投票を行い、最終的に第43回東京モーターショー2013の「Best of 未来」のTOP3を決める。

### ◇関連企画

#### ■“PlayStation®3” / 「グランツーリスモ」ブース（アトリウム）

第43回東京モーターショー2013の「グランツーリスモ」ブースでは、2013年12月5日発売予定のPlayStation®3専用ソフトウェア「グランツーリスモ6」の体験コーナーを展開。

#### ■トミカコーナー（西3ホール）

第35回ショー（2001年）以来、子供から絶大な人気を誇る(株)タカラトミー協賛による、ミニカーの展示・販売。恒例の東京モーターショー開催記念モデルの「トミカ」（680円・税込）をはじめ「ドリームトミカ」（630円～730円・税込）、「ディズニーモーターズ」（780円・税込）を販売。

#### ■ソープボックス モックカー工作&タイムアタック（西3ホール）

NPO法人 日本ソープボックスタダビーの協力のもと、ソープボックスのモックカー工作ならびにタイムアタックレースを実施。木製の組み立て式モックカーをその場で組み立て、計測器を取りつけた全長約10メートルのコースでタイムを競う、親子で参加できるファミリーイベント。その他、ソープボックスカー（実車）やパネルの展示など。

開催概要（予定）

日程：11月20日（水）～12月1日（日）

場所：西3ホール内

対象：主に小学生を対象とする（保護者同伴）

参加：当日会場にて先着受付（参加料は1,000円を予定）

#### ■COTY DAY（日本カー・オブ・ザ・イヤー最終選考会・表彰式）

2013-2014 日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会（参加媒体：35社）による、最終選考会・表彰式を東京モーターショー会場内にて「日本カー・オブ・ザ・イヤー・デー（COTY DAY）」として実施。

日時：11月23日(土)

13：30～14：30 COTY トークショー「おぎやはぎの愛車遍歴」（アトリウムステージ）

14：45～15：15 10ベストカー表彰（アトリウムステージ）

15：30～16：15 イヤーカー、部門賞、特別賞表彰（アトリウムステージ）

場所：東京ビッグサイト アトリウムステージ

#### ■ワールドフードカップ（屋外展示場）

西ホール・屋外展示場の特設試乗コース手前に、フードコート「ワールドフードカップ」を設置、世界のさまざまな地域から特色あるグルメを販売する。また、期間中に来場者の人気投票を実施し、No.1を決定する。

#### ■献血・骨髄バンクコーナー

日本赤十字社の協力要請を受け、会場内に献血バスを設置し、来場者の献血協力を実施する。

日時：11月23日（土）～12月1日（日）

場所：東展示棟1階ガレリアの東側屋外、及び西展示棟アトリウム屋外

## ◇主催者テーマ事業SMART MOBILITY CITY 2013

《KURUMA NETWORKING…くらしに、社会に、つながるクルマたち》をテーマに、「次世代自動車とそれを取り巻く社会システム」をより深く、よりわかりやすく紹介する。クルマが情報通信やエネルギーなどの社会システムとネットワークの重要な一端を担うことで、くらしの“安全・安心”を向上し、“利便性・快適性”の充実をもたらし、業種業態の枠を超え、新たな産業・市場が創造される可能性を、理解・実感していただく企画としている。

前回は、「世界一のテクノロジーモーターショーへ」のスローガンのもと、情報発信力で“存在感”のある国際モーターショーをめざすべく、初めて「SMART MOBILITY CITY 2011」を実施。これまで東京モーターショーには出展をしていなかった、住宅・通信・素材など多種多様な企業からの出展に加え、自動運転のデモンストレーションや次世代自動車の試乗会、会期中に開催した2つの国際シンポジウムも好評を博し、クルマを核にした「スマートコミュニティ」及び「ITS」における日本の技術の先進性を国内外に発信した。

### ■SMART MOBILITY CITY 2013 開催概要

名 称	SMART MOBILITY CITY 2013
テ ー マ	～KURUMA NETWORKING…くらしに、社会に、つながるクルマたち～
主 催	一般社団法人 日本自動車工業会
開催期間	11月22日（金）～12月1日（日）【10日間】
	プレスデー：11月20日（水）、21日（木） 特別招待日／プレビューナイト：11月22日（金）
会 場	第43回東京モーターショー 2013会場内 （東京ビッグサイト西4ホール〈6,840m <sup>2</sup> 〉及び屋外展示場〈6,000m <sup>2</sup> 〉）
入 場 料	無料。但し、東京モーターショーの入場券が必要。
構 成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エキシビション：（西展示棟4階西4ホール）               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 先進技術・製品展示ゾーン： 情報通信、環境・エネルギー関連の民間企業・関連団体・行政機関などの出展による最先端の製品／技術／システム／サービスのプレゼンテーション。</li> <li>2) コア展示ゾーン： 主催者による「次世代自動車とそれを取り巻く先進の社会システム」を疑似体験する体感型展示。</li> </ol> </li> <li>・テストライド：（屋上展示場、西展示棟4階西ホール、トラックヤード） パーソナルモビリティ、超小型モビリティ、高度運転支援システムや自動運転など、さまざまな新しい技術の体験、またはデモンストレーション。</li> <li>・カンファレンス：（会議棟1階・6階・7階、西展示棟4階西4ホール） 最先端の技術開発動向及び国際標準化動向等について、国内外の専門家・企業経営者・技術者による講演、セミナー、キッズ向けワークショップ等を開催。</li> </ul>

### ■エキシビション

自動車メーカーはもとより、情報通信、電子機器、住宅、素材などのメーカー、研究機関などが集まり、それぞれの視点・技術・システムから「クルマとくらしの明日」を展示訴求。

エキシビションエリアの中心で展開する「コア展示」では、既実現しつつある、または実証実験段階にある技術やサービスから10年くらい先、そしてさらにその将来の夢を体感できる企画として、クルマ型のミニシアターに乗り込み、明日のクルマや暮らしがあるスマートモビリティシティのさまざまな世界を探訪する「SMC TOURS」を実施。また、壁面ではそれらの全体像がわかる巨大なマップにより、次世代自動車と

それを取り巻く社会システムを、より深く、よりわかりやすく展示する。

### ■テストライド

西4ホールのコア展示やトラックヤードではパーソナルモビリティ、超小型モビリティのほか電動二輪車の体験走行、屋上展示場では自動運転のデモンストレーションのほか、高度運転支援システムとEV・PHVの体験会を実施。

- ・ パーソナルモビリティ体験走行

開催期間：11月22日(金)～12月1日(日)  
10日間 10：15～16：00

開催場所：コア展示（西4ホール内）

- ・ 超小型モビリティ体験走行

開催期間：11月22日(金)～12月1日(日)  
10日間 10：30～16：00

開催場所：コア展示（西4ホール内）＋  
トラックヤード（屋外）

- ・ 電動二輪車試乗会

開催期間：11月22日(金)～12月1日(日)  
10日間 14：15～15：15

開催場所：トラックヤード（屋外）

- ・ 高度運転支援システム試乗会

開催期間：11月22日（金）～26日（火）5日間 10：30～16：00（ブレーキ体験の一部は12月1日（日）まで）  
開催場所：屋上展示場（屋外）

- ・ 自動運転デモンストレーション

開催期間：11月25日（月）～26日（火）2日間 10：30～16：00  
開催場所：屋上展示場（屋外）

- ・ 充電インフラ、EV・PHV体験会

開催期間：11月27日（水）～12月1日（日）5日間 10：30～16：00  
開催場所：屋上展示場（屋外）

主 催：一般社団法人 次世代自動車振興センター

### ■カンファレンス

- ・ 国際シンポジウム

自動運転をはじめとした先端技術の開発動向や、明日の社会とその移動の可能性について、国内外の自動車メーカー・IT企業、及び世界第一線の知識人による講演とセッション。

- ・ アドバンス・テクノロジー・セミナー

SMART MOBILITY CITY 2013 出展者による、技術・システムのプレゼンテーション。

- ・ キッズ・ワークショップ

次代を担う子どもたちを対象としたワークショップ。事前予約制以外のワークショップは会場にて受付。



コア展示のイメージ図

第43回東京モーターショー2013—出展者—

(2013年11/1現在)

乗用車 [西展示棟]

ホンダ  
三菱  
AMG [独]  
メルセデス・ベンツ [独]  
ラディカル [英]  
スマート [独]  
テスラ [米]

乗用車 [東展示棟]

ダイハツ  
レクサス  
マツダ  
日産  
スバル  
スズキ  
トヨタ  
アルピナ [独]  
アウディ [独]  
BMW [独]  
シトロエン [仏]  
ジャガー [英]  
ランドローバー [英]  
MINI [独]  
プジョー [仏]  
ボルシェ [独]  
ルノー [仏]  
フォルクスワーゲン [独]  
ボルボ [瑞]

商用車 [西展示棟]

三菱ふそう

商用車 [東展示棟]

日野  
いすゞ  
UDトラックス  
現代 (ヒュンダイ) [韓]  
ボルボ・トラック [瑞]

二輪車 [西展示棟]

ホンダ  
ヤマハ

二輪車 [東展示棟]

カワサキ  
スズキ  
BMW [独]  
KTM [奥]

カロッツェリア [西展示棟]

KEN OKUYAMA DESIGN  
NATS 日本自動車大学校  
レスク  
高山自動車  
カンバーニャ [加]

車体 [屋内]

日産車体  
トヨタ車体  
トヨタ自動車東日本

車体 [屋外]

日本自動車車体工業会  
浜名ワークス

極東開発工業  
日本フルハーフ  
日本トレクス  
日通商事  
SG モーターズ  
新明和工業  
須河車体  
タダノ  
東邦車輛  
矢野特殊自動車

SMART MOBILITY CITY 2013 [西展示棟]

経済産業省資源エネルギー庁  
旭硝子  
日本大学工学部  
D ART  
デンソー  
エコモ  
グロースンドリーム  
ホンダ  
ITS JAPAN  
コボット  
マツダ  
国土交通省道路局  
環境省  
三菱  
日産  
NTT ドコモ  
ブロッツァ  
水素供給・利用技術研究組合  
積水ハウス  
TERRA MOTORS  
常盤産業  
東芝  
トヨタ  
トヨタホーム  
道路交通情報通信システムセンター  
ジード  
HIRIKO.JP  
TUM CREATE [星]

部品・機械器具 [西展示棟]

アルコア・ホイール・プロダクツ・ジャパン (株)  
アルバイン (株)  
朝日電装 (株)  
ビーウィズ (株)  
BNL ジャパン (株)  
ボッシュ (株)  
大同メタル工業 (株)  
 (株) ファインシンター  
富士通 (株)  
HKT (株)  
 (株) イケヤフォーミュラ  
 (株) 今仙電機製作所  
インファステック (株)  
IPF (株)  
イサム塗料 (株)  
イワタボルト (株)  
 (株) コイワイ  
 (株) クゼー  
マーレエンジンコンポーネンツジャパン (株)  
 (株) マーレフィルターシステムズ  
ミドリホクヨー (株)  
 (株) ミクニ  
日本モレックス (株)  
日本ピストンリング (株)  
日本サーモスタット (株)  
 (株) リケン  
サンデン (株)  
三輪精機 (株)  
 (株) ソニックデザイン  
大豊工業 (株)

(株) 東日製作所  
TONE (株)  
TPR (株)  
 (株) ワーテックス  
八千代工業 (株)  
ユアサ工機 (株)  
Continental AG [独]  
MAHLE GmbH [独]  
Robert Bosch GmbH [独]  
Samvardhana Motherson Group [印]  
ZF Friedrichshafen AG [独]

部品・機械器具 [東展示棟]

(株) アドヴィックス  
アイシン・エーアイ (株)  
アイシン・エイ・ダブリュ (株)  
アイシン化工 (株)  
アイシン精機 (株)  
アイシン高丘 (株)  
曙ブレーキ工業 (株)  
アンデン (株)  
アスモ (株)  
 (株) ブリヂストン  
 (株) カーメイト  
クラリオン (株)  
 (株) データシステム  
デルタ工業 (株)  
 (株) デンソー  
 (株) エクセディ  
富士機工 (株)  
日本グッドイヤー (株)  
浜名湖電装 (株)  
日立オートモティブシステムズ (株)  
日立金属 (株)  
日立ビークルエナジー (株)  
日立製作所 (株)  
ジャヤトコ (株)  
 (株) ジェイテクト  
 (株) ケーヒン  
 (株) 小糸製作所  
京三電機 (株)  
京都機械工具 (株)  
協和工業 (株)  
 (株) 松井製作所  
水戸工機 (株)  
 (株) ミツバ  
三菱電機 (株)  
日本特殊陶業 (株)  
日本発条 (株)  
日信工業 (株)  
NOK (株)  
日本精工 (株)  
NTN (株)  
オムロンオートモーティブエレクトロニクス (株)  
 (株) アル・ダブリュ・シー  
 (株) レイズ  
スナップオン・ツールズ (株)  
スタンレー電気 (株)  
住友電気工業 (株)  
住友ゴム工業 (株)  
 (株) タチエス  
横浜ゴム (株)  
 (株) 東海理化  
東海ゴム工業 (株)  
トキコテクノ (株)  
豊田合成 (株)  
トヨタ紡織 (株)  
 (株) 豊田自動織機  
テイ・エス・テック (株)  
 (株) ユーシン  
矢崎総業 (株)  
 (株) ヨロズ  
 (株) ワイビーシステム

Hirschvogel Holding GmbH [独]  
Militec Corp. [米]  
Ohlins Racing AB [瑞]  
Schaeffler AG [独]  
 (一社) 日本自動車部品工業会共同展示  
3D AUTO PROTECH (株)  
 (株) アステア  
藤壺技研工業 (株)  
丸子警報器 (株)  
西岡可鍛工業 (株)  
大野ゴム工業 (株)  
やまと興業 (株)

政府 [西展示棟]

メキシコ大使館商務部 PROMEXICO

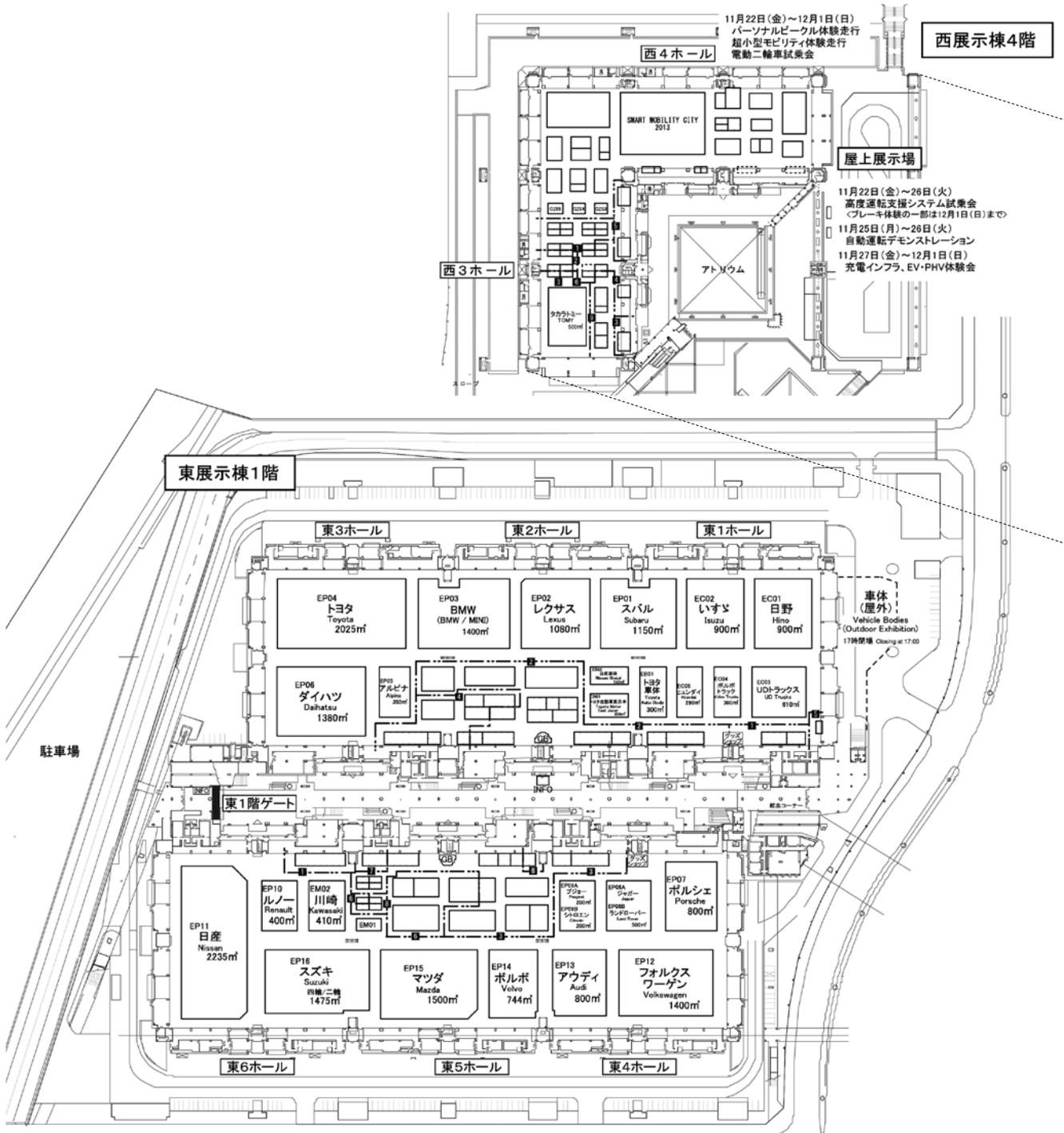
自動車関連サービス [西展示棟]

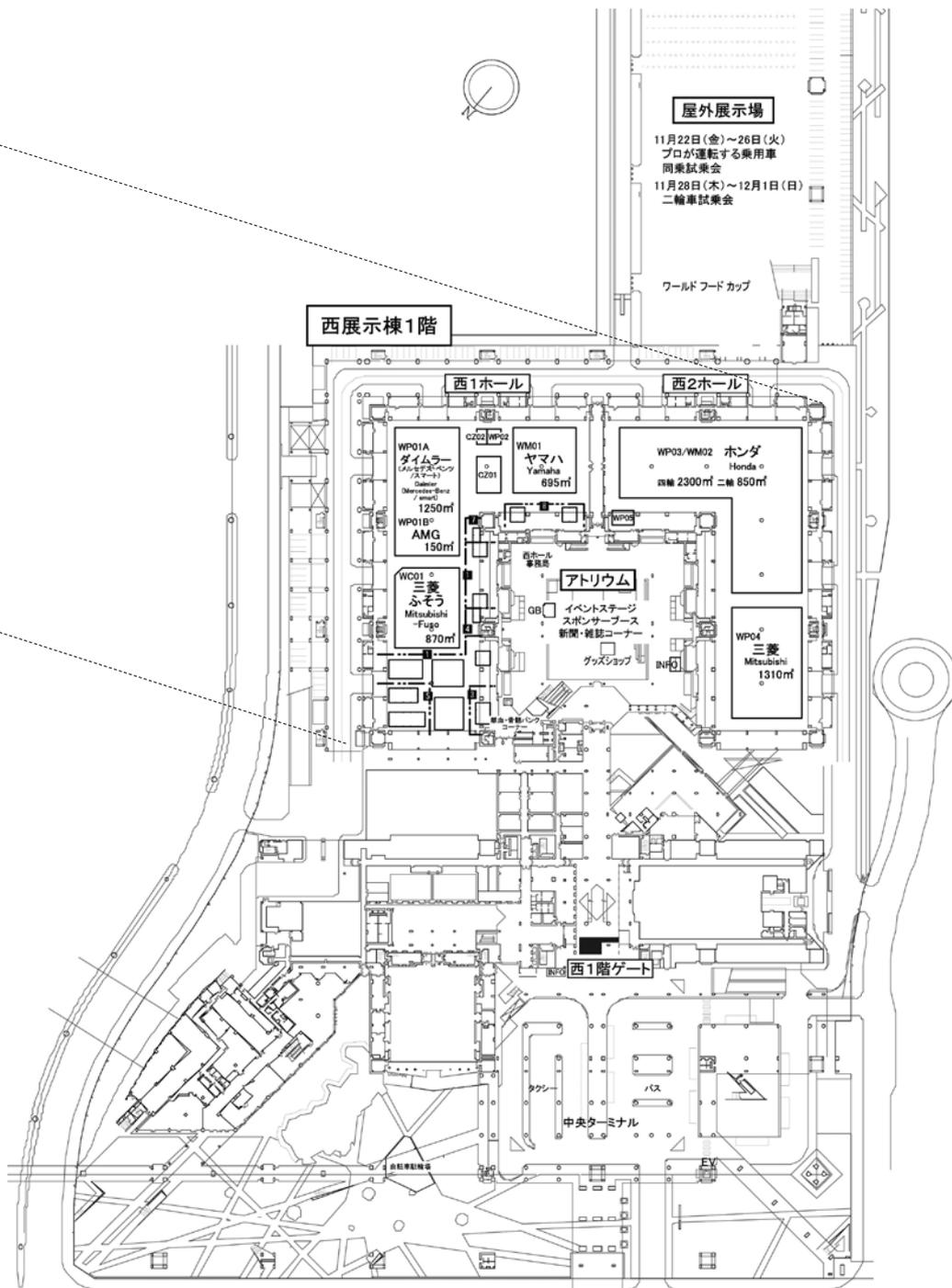
九都県市首脳会議 環境問題対策委員会 大気保全専門部会  
 (一社) 日本自動車連盟  
国土交通省 自動車局技術政策課  
 (独) 自動車事故対策機構  
 (一社) 全国自動車標板協議会

新聞・雑誌コーナー [アトリウム]

(株) カーアンドレジャーニュース  
 (株) 日刊自動車新聞社  
 (株) フォーイン  
 (株) グランプリ出版  
 (株) 講談社ビーシー  
 (株) 交通タイムス社  
 (株) 交通毎日新聞社  
 (有) 三樹書房  
 (株) モーターマガジン社  
 (株) 内外出版社  
 (株) ネコ・パブリッシング  
 (株) ニ玄社  
 (株) ぼると出版  
 (株) 三栄書房  
 (株) 八重洲出版

# 全体図







## 「自動車が変わるもの」

松倉 佑輔  
毎日新聞社

◇どの教室もたくさんの学生であふれていた。日本自動車工業会はこの秋、「大学キャンパス出張授業～経営トップが語るクルマの魅力～」と銘打って、各社のトップが大学に出向いてクルマの魅力について語る企画を開催した。若者のクルマ離れが叫ばれて久しいが、経営トップの言葉を通じてクルマに関心をもってもらうのが目的だ。私も、明治大学での豊田章男社長（トヨタ自動車）、中央大学での吉永泰之社長（富士重工業）、早稲田大学で益子修社長（三菱自動車工業）の講演をそれぞれ取材した。驚いたのは、質疑応答の際に学生が挙げる手が途切れなかったこと。記者顔負けの専門的な質問もあった。終わった後の学生に感想を聞いてみると「クルマに興味があった」と好意的な声も相次いだ。自動車に対する潜在的な関心はやはり高いのだ。◇ただ「クルマを買おうと思う？」と聞くと「それは無理ですよ、必要なものでもないし」と皆、苦笑い。実際、都心部で若者がクルマを所有するのは大変だ。取得税に始まって、毎年の保険代やガソリン代、自動車税、さらに高額な駐車場代がかかる。問題は経済的なことだけではない。豊田社長は講演で「私の世代では、最初のデートにはクルマが必要というのは『常識』だった。今では使うお金がスマホに移っている」と話した。昔は、クルマを持てば生活が劇的に変わると想像できた。成熟産業の宿命だが、今の若者はそのような想像をしにくくなっているのではないか。

◇普及が一気に進んだスマートフォンやタブレ

ット。アップルは、その開発・販売を通じて既存のモバイルを所有するだけでは味わえないライフスタイルの変化の提案をたくみに打ち出してきた。仕事の仕方や余暇の過ごし方、友人とのコミュニケーション方法まで、すべてが変わるといことが広く伝わり、世界中の人にスマホが生活を変えるための必需品として認識されたのだ。

◇クルマは今後、新たなライフスタイルを提案できるだろうか。その意味で注目したいのが自動運転技術だ。10月に東京で開かれたITS世界会議。自動車メーカーが主役ではあるが、展示会場では電機メーカーのブースも目を引いた。テレビ事業の不振や海外勢との競争激化で苦しい時期が続いている日本の電機産業だが、この日の会場で示された展示は、米国のIT技術とは一線を画す、ものづくりと連動した目を見張るようなソフト技術の数々だった。

◇人工知能を駆使した自動運転技術は、まさにエレクトロニクス技術とリンクする。日本の基幹産業の自動車メーカーと電機メーカー。これまで、個々の会社がいくつもの技術革新を成し遂げてきた。今こそ、企業や業界の垣根を越えて総力を結集し、グーグルやアップルに負けない底力を見せるときではないだろうか。自動運転技術は、自動車を単なる移動手段ではなく、より生活に密着したツールに生まれ変わらせる可能性を秘めている。そのときには、「若者のクルマ離れ」はもう昔話になっているはずだ。

（まつくら ゆうすけ）

## 消費税引き上げについて

2013年10月1日

本日、安倍総理が、日本経済の持続的成長を見据え、来年4月からの消費税率8%引き上げを決断し、また、力強い経済対策を打ち出されたことを高く評価する。

中でも、自動車関係諸税見直しの方向性が示されたことは、ユーザーの負担増に対する懸念を払拭し、自動車市場の活性化、ひいては日本経済の成長につながるものとして歓迎したい。

政府におかれては、年末の税制改正議論において、消費税8%時点での自動車取得税3%引き下げやエコカー減税拡充など、ユーザー負担軽減のための具体的措置を講じて頂くとともに、消費税10%時点における自動車取得税の確実な廃止や、保有課税の抜本的な見直しをお願いしたい。

自動車業界としては、先進的な技術開発の促進、人材の育成、国際競争力の強化を図ることによって、引き続き日本経済の発展に貢献していく所存である。

## 第43回東京モーターショー2013 “Mobilityscape Tokyo” を開催 — プレス向けイベント —

2013年10月15日

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：豊田章男）は、第43回東京モーターショー2013のプレスデー（11月20日（水）～21日（木））の前日である11月19日（火）にザ・プリンスパークタワー東京にて、「Mobilityscape Tokyo」と題して、国内外合わせて1,000人規模のプレス関係者を対象としたイベントを初めて開催致します。

これは、国内外プレスの方々に、東京モーターショーのみならず日本の自動車産業をより深く知っていただきたいという想いのもと開催するもので、東京モーターショー主催者である日本自動車工業会の正副会長会社5社のトップによるリレースピーチやトークセッション、日本自動車工業会会員14社や第43回東京モーターショー2013の共催団体のトップが参加するフォトセッションを行ないます。

セッション終了後は会場を移しレセプションを行ないます。来場プレスとの懇談の場を用意するとともに、日本自動車工業会会員14社の歴史的なイノベーションが感じられる車両・製品を展示致します。

本イベントは第43回東京モーターショー2013のプレス登録者が対象となり、イベントへの参加は事前登録が必要ですので、実施概要をご参照の上お申し込みください。

**<セッション> 時間：15：00～16：00 会場：コンベンションホール**

### ●リレースピーチ（15：01～15：21）

日本自動車工業会正副会長会社5社（トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、マツダ、三菱自動車工業）のトップによるリレースピーチを展開。日本の自動車産業が持っている「匠の技」、そして、それによって導かれるイノベーションの可能性など、自動車産業の将来に向けた展望を発信します。

### ●トークセッション（15：21～15：50）

そのスピーチを受けて、モデレーターが各社トップに質問、テーマをより深く掘り下げます。

### ●フォトセッション（15：50～16：00）

日本自動車工業会会員14社トップの登壇によるフォトセッション。続いて第43回東京モーターショー2013の共催団体（日本自動車部品工業会、日本自動車車体工業会、日本自動車機械器具工業会、日本自動車輸入組合）のトップを加えたフォトセッションを行ないます。

**<レセプション> 時間：16：30～17：30 会場：ボールルーム**

会場を移しレセプションを開催。日本のおもてなしの心を表現した、国内外プレスとの懇談の場とします。また、日本自動車工業会会員14社の歴史的なイノベーションが感じられる車両・製品が会場に展示され、各社トップによる製品説明も行ないます。

<実施概要(予定)>

名 称	The 43rd Tokyo Motor Show 2013 Mobilityscape Tokyo		
日 程	11月19日(火) 15:00~17:30		
会 場	ザ・プリンスパークタワー東京 (東京都港区芝公園4-8-1)		
構 成	時 間	内 容	会 場
	15:00-15:01	<オープニング>	コンベンション ホール
	15:01-15:21	<リレースピーチ> 豊田章男 (一般社団法人 日本自動車工業会 会長、トヨタ自動車(株) 代表取締役社長) 志賀俊之 (日産自動車(株) 代表取締役 最高執行責任者) 伊東孝紳 (本田技研工業(株) 代表取締役 社長執行役員) 小飼雅道 (マツダ(株) 代表取締役 社長 兼 CEO) 益子修 (三菱自動車工業(株) 取締役社長)	
	15:21-15:50	<トークセッション> 同 上	
	15:50-16:00	<フォトセッション> 日本自動車工業会会員14社トップ、第43回東京モーターショー2013共催団体トップなど	
	16:00-16:30	<会場移動>	
	16:30-17:30	<レセプション>	ボールルーム
登録方法	<p>海外プレス： 第43回東京モーターショー2013オフィシャルウェブサイトにてお申し込みください。 <a href="http://www.tokyo-motorshow.com/en/press/">http://www.tokyo-motorshow.com/en/press/</a></p> <p>国内プレス： 下記ウェブサイトにて申込用紙を入手の上、FAXにてお申し込みください。 <a href="http://www.mobilityscape-tokyo.com">http://www.mobilityscape-tokyo.com</a></p> <p>*登録締切：11月1日(金)</p>		
特記事項	<p>※本イベントのご入場には第43回東京モーターショー2013のプレスカードが必要となります。 ※会場キャパシティの関係により入場人数に限りがございます。申し込み状況により抽選とさせていただきますのでご了承ください。</p>		

本件に関するお問い合わせ

Mobilityscape Tokyo事務局

TEL : 03-3239-1836 (平日 10:00~18:00)

FAX : 03-5214-6995

MAIL : jimukyoku@mobilityscape-tokyo.com

## 第43回東京モーターショー2013

各種入場券の一般販売と「参加券付入場券」、「聴講券付入場券」の販売を開始

2013年10月24日

一般社団法人日本自動車工業会（会長：豊田章男）は、10月25日（金）から、第43回東京モーターショー2013入場券をコンビニエンスストア、公共交通機関、主要旅行代理店、各種プレイガイドで販売開始致します。また、「オフィシャルWebサイトオンラインチケットサービス（e-tix）」では、第43回東京モーターショー2013において実施する各種イベントの「参加券付入場券」、「聴講券付入場券」及び「スマートフォン・タブレット端末向け入場券」を販売開始致します。

### 【第43回東京モーターショー2013「参加券付入場券」、「聴講券付入場券」について】

第43回東京モーターショー2013において実施するイベントの「参加券付入場券」、「聴講券付入場券」は、「オフィシャルWebサイトオンラインチケットサービス（e-tix）」での販売のみとなります。

#### ○自動車ジャーナリストと巡る東京モーターショー

日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ、会長：日下部保雄氏）のご協力による、一般来場者を対象にしたガイドツアー。AJAJ会員のジャーナリストがガイドとなり、専門家の視点でクルマの魅力をご案内します。参加者は、スタンダードコースとクルマ好きコースから、興味のあるコースを選択できます。このガイドツアーへの参加には、「参加券付入場券」（2,000円）が必要です。

日程：11月25日（月）～29日（金）、1日4回実施

定員：各回5グループ（スタンダード：2グループ、クルマ好き：3グループ）、1グループ最大10人

#### ○主催者テーマ事業「SMART MOBILITY CITY 2013」

「KURUMA NETWORKING～くらしに、社会に、つながるクルマたち～」をテーマに開催する主催者テーマ事業「SMART MOBILITY CITY 2013」では、以下の国際シンポジウム及びキッズ・ワークショップを実施します。国際シンポジウムへの参加には「聴講券付入場券」（1,300円）、キッズ・ワークショップへの参加には「参加券付入場券」（1,300円）が必要です。

#### ①国際シンポジウム「安全・安心へ、つながるクルマ～高度運転支援システムの可能性～」

基調講演：渡邊浩之氏（ITS Japan会長）

日時：11月25日（月）10：30～16：50

場所：東京ビッグサイト 会議棟6階 605-608会議室

#### ②国際シンポジウム「未来社会と未来の移動」（特別協力：トヨタ自動車株式会社）

基調講演：伊藤穰一氏（MITメディアラボ所長）

日時：11月28日（木）11：00～16：30

場所：東京ビッグサイト 会議棟7階 国際会議室

#### ③キッズ・ワークショップ「日産わくわくエコスクール」

実施企業：日産自動車株式会社

日時：11月23日（土）、24日（日）

場所：東京ビッグサイト 会議棟1階 102会議室

内容：電気をつくって電気自動車の模型を走らせよう！

#### ④キッズ・ワークショップ「パナソニックキッズスクール ハイブリッドカー工作教室」

実施協力：パナソニックセンター東京

日時：11月23日（土）、24日（日）

場所：パナソニックセンター東京／SMART MOBILITY CITY 2013会場内

内容：パナソニックセンター東京でハイブリッドカー工作教室に参加後、SMART MOBILITY CITY 2013のガイド付き見学会を実施します。

＜本件に関するお問い合わせ＞

東京モーターショー 東京ビッグサイト事務局（株式会社東京ビッグサイト内）

TEL：03-5530-1315／FAX：03-5530-1699 E-mail：ticket-tms@tokyo-bigsight.co.jp

2013年第2四半期および上半期累計海外生産統計

2013年10月30日

2013年第2四半期の海外生産台数は、北米・中南米・大洋州地域において現地生産が増加したことから、前年同期比101.1%の4,132,602台となった。

2013年上半年（2013年1月～2013年6月）は、欧州・アフリカ地域を除く全地域において現地生産が増加したことから、前年比101.2%の8,335,198台となった。

■2013年第2四半期実績

(単位：台)

	2013年4-6月	2012年4-6月	前年同期比 (%)
アジア	2,167,705	2,221,442	97.6
中近東	0	0	—
欧州	348,746	375,226	92.9
EU	325,343	346,641	93.9
北米	1,195,956	1,106,859	108.0
米国	945,831	860,245	109.9
中南米	333,089	298,329	111.7
アフリカ	60,595	61,424	98.7
大洋州	26,511	24,509	108.2
合計	4,132,602	4,087,789	101.1

■2013年上半年実績

(単位：台)

	2013年1月-2013年6月	2012年1月-2012年6月	前年同期比 (%)
アジア	4,444,095	4,410,666	100.8
中近東	0	0	—
欧州	721,793	792,274	91.1
EU	684,224	733,027	93.3
北米	2,341,146	2,248,377	104.1
米国	1,876,252	1,752,476	107.1
中南米	654,952	604,894	108.3
アフリカ	123,985	130,208	95.2
大洋州	49,227	49,166	100.1
合計	8,335,198	8,235,585	101.2

## 平成25年工業統計調査の実施について

経済産業省

製造事業所の皆様へ

経済産業省では、工業統計調査を平成25年12月31日現在で実施します。本調査は、製造業を営む事業所を対象に、1年間の生産活動に伴う製造品の出荷額、原材料使用額などを調査し、製造業の実態を明らかにすることを目的としています。

本調査は、国の重要な統計調査であり、調査結果は国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として使われるほか、大学や民間の研究機関等においても広く利用されています。

調査をお願いする製造事業所には、本年12月中旬から来年1月にかけて統計調査員が調査票を持って伺いますか、または国から直接郵送でお届けいたしますので、お忙しい時期とは存じますが、調査にご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、皆様からご提出いただく調査票については、統計法に基づき調査内容の秘密は厳守されますので、正確な御記入をお願いします。



# 工業統計調査

平成25年

調査期日 **12月31日**



経済産業省・都道府県・市区町村  
<http://www.meti.go.jp>

皆様のご回答をお願いします。

## 編集後記 Editor's Notes

◇記録的な残暑はいつの事だったかと思うくらい、すっかり秋になった。秋と言えばそう“食欲”と言いたところではあるが、自動車業界にとって秋は何かと忙しい時期。特に今年は東京モーターショー、関連イベントなどが目白押し、ゆったりと秋の夜長を楽しむ時間などないような気がする。

◇一方でマイカー購入検討中のわが家にとってこの秋はいろいろな車を見られる絶好のチャンスと楽しみにしている。実車は気兼ねなく見ておきたい、が、ディーラーへ行くには面倒なときもある。

◇その点モーターショーは各社の車が一堂に会し、自分のペースでいろいろなブランドの車を見て回る事ができる。日ごろは敷居が高く、触れる事もない高級車に乗り込み、いつかは…と夢見たり、おせっかいとは知りつつも、友達に似合うクルマを勧めてみたり、現実的に価格と機能を比較検討したり、とその過程だけでも楽しい。

◇今年のモーターショーは未来のクルマ社会、技術について学び、横目で購入検討、はて、仕事に集中できるか。 (Y)

### JAMAGAZINE編集委員 (会報分科会)

分科会長：日産自動車(株)/志水純之

分科会委員：いすゞ自動車(株)/金子恭子、川崎重工業(株)/小池田達郎、スズキ(株)/望月 英、

ダイハツ工業(株)/中大路康太、トヨタ自動車(株)/三好幸子、日野自動車(株)/手塚英信、

富士重工業(株)/川原麻美、本田技研工業(株)/岡田友博、マツダ(株)/矢野圭子、

三菱自動車工業(株)/稲田 開、三菱ふそうトラック・バス(株)/品田善之、ヤマハ発動機(株)/鎌田陽子、

UDトラックス(株)/栗橋恵都子

自工会事務局委員：大上 工・藤巻篤史・吉野紀咲・林 公子・木村真帆

### JAMAGAZINE11月号 vol.47

発行日 平成25年11月15日

発行人 一般社団法人 日本自動車工業会

発行所 一般社団法人 日本自動車工業会

東京都港区芝大門1丁目1番30号

日本自動車会館

郵便番号 105-0012

電話 03(5405)6119 (広報室直通)

印刷 こだま印刷 株式会社

©禁断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



# JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

---

自工会インターネットホームページ「info DRIVE」URL <http://www.jama.or.jp/> 自動車図書館 TEL 03-5405-6139

